

きっと、もっと、すてきな夢を咲かせます。

人間らしさをキーワードに、いま私たちの生活や社会には

本当の豊かさやゆとりが求められています。

日立は、どこまでも人にやさしい先端技術を通じて

そんな暮らしの夢をひとつひとつ花開かせ

豊かな実りをお届けします。

株式会社 日立製作所

巻頭言

財団法人日本ハンドボール協会専務理事
中澤　重夫



日本ハンドボールの還暦を迎え新たな出発を

平成9年に日本ハンドボール協会は創立60周年を迎えます。人間で言えば還暦となり、また新たな歴史と伝統を創造して行かねばなりません。過去に目を向ければ、私たちの先輩諸氏のご苦労はなみなみならぬものがあったと思います。これらのご苦労の一端が村田弘氏のような本年叙勲というかたちに表れ、今迄のご苦労が報われることは私どもハンドボール人にとって大変に喜ばしいことであります。私たちにとって、60年の歴史の上で先輩諸氏の築かれたハンドボール界の沢山の財産を守り続け、さらに発展させていくことが大切な務と考えております。

この60年の間に世界の歴史は大きく変貌を遂げ、日本の社会情勢もまた大きく様変わりをしております。1946年ヨーロッパの14カ国で出発した国際ハンドボール連盟は、1952年日本の加盟でも22カ国に留まっています。それが現在では138カ国と膨れ上がってきており、さらに増え続けていくことと思われます。またアジアの大陸連盟の創立も発展の大きな力となっております。これに伴って、オリンピック、アジア大会での競技種目としての採用など国際大会も数多く創設されておりま す。この時代の流れの中で1970年代には日本は世界から注目された存在でもありました。しかし世界の流れは急激でもあり相対的に日本の地位が下がったように見えますが、力が落ちたと言うことではありません。現在では頂点強化をしていれば世界に通用すると言うような時代ではなくなってきているので す。ハンドボールへの入り口であるミニハンドボールから頂点強化の基礎となるジュニア対策、これらに関わる指導者問題、さらにレフェリー対策とどれを取っても日本の頂点強化、活性化には大切なものばかりです。また、これらを支えるべき地域に根ざしたスポーツ、生涯スポーツとしてのハンドボールも大切に育てていかなければなりません。

このような変化の中にあって、先を見据えた施策を実行していくことは将来の活性化に向かって大変重要なことになりましょう。私たちハンドボール人としては、来年の還暦を契機として、これからの時代に向かうにはなにが重要かを、大局的な立場で大いに論議して、実施に移して行こうではありませんか。そして、日本のハンドボールが世界で活躍出来るような人材を育てて行こうではありませんか。

協会だより

9月度常務理事会

日　時　9月21日(土)　10時30分から16時

場　所　東京体育館第4研修室

出席者　中澤専務理事、常務理事7名、監事、参事各1名、事務局2名

1、97男子世界選手権関連事項

(1)記念入場券、開会式入場券、抽選会予算、タラフレックス、スポンサーについて報告があった。

10月5日に日本協会業務担当と熊本事務局の担当者との打ち合わせ開催のため、対応を協議。

1）運営組織体制図について検討することとした。

2）業務の日本協会担当者について、細部について検討し、統括責任者、副担当を決めた。

3）個別打ち合わせ分科会について、日本協会と熊本事務局で相談、アドバイスできる体制を取る分科会を設け、担当者が業務の円滑を図るため他に応援を求めメンバーにすることの提案があり了承。

4）日本協会と熊本事務局との合同会議について、分科会の報告を審議することで全体の推進状況を把握するため開催することとした。

5）熊本事務局への駐在の要請を受けていることが報告され、日本協会としても派遣者の勤務先へ依頼していくことで了承。

6）専門分野、運営方法、ＩＨＦ・ＡＨＦへの対応については日本協会がリード、指導して行くことが望ましいとのことにより、世界選手権に向けての業務の担当者を実施計画書素案により決定した。

合同会議に提案、検討する。

(2)全国向けＰＲとして、10月29日に東京、大阪、名古屋において車内中吊り広告を実施。

(3)財務について、日本協会としては補助金を活用できるよう手続きをしているが、全体的には財務支出を圧縮する方向で推進していく。

(4)フェスティバル選手権大会（仮称）、フレンドシップ97について報告

2、選手強化関連事項

オリンピック大会の反省と今後の対応についてＪＯＣと個別打ち合わせの報告。国際大会結果、全日本男子チームの今後の予定について報告。

3、報告事項

(1)普及指導委員会

中体連競技部会報告。ドーピング、スポーツ医学国際学会について報告。

(2)第51回国民体育大会組み合わせ抽選結果報告。10月17日男子決勝戦をＮＨＫ教育テレビで放映の報告。

4、その他

オーナー会議について事前打ち合わせをすることを確認。

11月常務理事会開催日変更了解。

井常務理事が西アジア大会ＣＯＣ委員会に参加することで、熊本事務局との打ち合わせ会での担当事項を山下理事に依頼することで了解。

平成9年度全日本総合選手権の女子の部を神戸市で開催することについて、兵庫県協会に依頼書を出すこととした。

賛助会担当役員について了承した。

全日本教職員大会の香川選抜チームに顛末書の提出を要請することとした。

ジュニア育成対策として、中・高各大会において優秀選手の発表及び日本協会への報告を指導することを確認した。

日本・スウェーデン国際大会について、名古屋・大阪・熊本大会共通のパンフレットをスポンサーが決まり次第作成する報告があった。

村田 弘 氏
喜びの受章

日本ハンドボール協会
元常務理事・村田弘氏
勲五等双光旭日章を受章



このたびの叙勲で、㈶日本ハンドボール協会元常務理事、元ナショナルチーム監督の村田弘氏の永年に亘るハンドボール競技の普及、発展に尽くされた功績に対し勲五等双光旭日章が授与されることになりました。

同氏は昭和26年日本ハンドボール協会理事に就任して以来、昭和60年まで理事、常務理事を歴任されました。昭和31年よりはナショナルチーム監督として世界選手権をはじめとして、数多くの大会に監督として海外派遣されました。また、ミュンヘンオリンピックでのハンドボール競技の採用が決まるやオリンピック対策委員長の要職を勤められ、その抜本的な選手強化によりミュンヘンオリンピックの出場権の栄冠を手にしたことは高く評価されているものであります。

この間、2カ月間に亘るヨーロッパ遠征を行い、日本ナショナルチーム初の海外での優勝を飾り、さらに、ミュンヘンオリンピック金メダルのユーゴスラビアに勝ちヨーロッパにおいて日本は高い評価を受けました。

また、同氏はマスメディアにのった普及広報活動の必要性から、NHKや民放各社に足を運ばれました。そして実況中継が決まるや多くの実況中継の解説を担当され、その適切な解説は多くの人が関心を寄せるところとなりました。さらにハンドボール競技のルールや戦術、また実戦的な動作の指導などのために、NHKスポーツ教室などにも出演されました。

今回の栄誉に対し心からお祝を申し上げると共に、益々のご活躍を願う次第であります。

第15回世界選手権・熊本

ご協賛のお願い

世界選手権 フレンドシップ'97

拝啓　時下益々のご清勝のこととお慶び申し上げます。平素は財団法人日本ハンドボール協会の事業運営に格別のご高配を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、皆様既にご高承のとおり、平成9年（1997年）5月17日から6月1日まで、熊本県において「97男子世界ハンドボール選手権大会・熊本」が開催されることになりました。男子世界選手権大会が本場ヨーロッパの地から離れて開催されることは初めてのことであり、日本ハンドボール界と致しましてもこの重要且つ貴重な大会を是非とも成功させ、歴史に残る立派なものにしなければなりません。

このような有意義な大会を成功に導くために、㈶日本ハンドボール協会、1997年男子世界ハンドボール選手権大会組織委員会は大会運営に対し両輪として総力を挙げて開催準備を進めているところであります。本事業は大会開催費、広報宣伝他多額の費用を要する大事業であり、本協会としても運営資金の調達に努力し、既に日本リーグ加盟チーム各社から特別支援金を納入して頂いてるところでございます。同様に、日本国内の各企業に寄付金、広告・協賛金のお願いをし、本事業の円滑な推進のための財源確保の努力しているところでございます。

財政的な基盤を固めると共に、本協会は大会開催にむけて今後独自の各種事業を展開していくことが求められております。本大会に出場する全日本チームの支援活動としての激励会の開催、平成9年4月の大会直前に行われる国際試合を壮行試合として大会のムードづくりをする企画実現、開催地の熊本県への観戦動員計画としての講演会、イベント等を含む大集合作戦の展開事業、世界選手権開催時期に同調して全国で同時開催する世界選手権応援大集合作戦の実現など、より充実した大会を支援する運営のための基金が必要となります。既に日本リーグ加盟チーム各社、財界を基盤とする各企業、関係団体には多額のご援助をいただいているところでございます。

本協会と致しましても、ブロック協会、都道府県協会、連盟のいわゆる身内としての多くの全国ハンドボール関係者の個人の皆様方似是非ともご援助、ご協力をお願いするところでございます。何卒、趣旨をご理解の上、皆様方のご援助を賜りたく心よりお願も申し上げます。

敬具

★専用払込み取扱票（郵便振替）が本誌にはさんであります。

●世界選手権フレンドシップ'97

募金金額（個人）

　１口１万円　　１口以上

記念品贈呈

1、'97男子世界ハンドボール選手権大会・熊本記念特製テレホンカード

2、㈶日本ハンドボール協会機関誌 世界選手権記念特集特別号（大会参加国決定後発行）

3、感謝状の贈呈および機関誌に氏名の掲載

フレンドシップ協賛名簿'97

（11月10日現在）

223名

【北海道】
倉本紘一
迫茂
岡田豊夫
村瀬清史

【青森県】
太田尚充
鳴海満
川島卯太郎
福士義昭
渡辺信行
滝口太
諏訪正徳
藤本武
坪谷雅幸
斎藤浩

【岩手県】
佐藤睦朗

【宮城県】
千田文彦
加藤正彰
東北福祉大ハンドボール部

【山形県】
我孫子功
五島訓二

【福島県】
中島寿美
関川正道
今野雅益

【茨城県】
筑波大OG会
河村レイ子
藤沢邦彦
田中汀子
小板橋潤
北村善夫
柏崎茂
富田拓
矢澤達司

【栃木県】
益子房之助
大出治男
岸裕行
山下勝司
高崎弘
田澤孝一
上野喜美
小西正寿
高橋隆夫

【群馬県】
伊藤克・巳

【埼玉県】
井田一博
井上素行
藤間純子
木野実
岡村昭二
佐藤美由紀
入江直子
萩原初江
塚田咲枝

【千葉県】
木内兵太郎
木内久美子
山上修二郎
田村幸雄
山本伸二
内田明克
氷海正行
稲生茂
松本滋
仲田稔

【東京都】
佐藤佳子
江成元伸
兼子真
高橋健夫
田島悦子
高橋英次
後藤登
市原則之
今井敏之
岩本任弘
大塚文雄
菅原恵子
栗山淳一

【神奈川県】
真田元
村松英美
近久紀人
松井正敏
大城和彦

【山梨県】
千野恒夫
清水正
上野保
清水剛
斎藤実
栗原富貴子

【長野県】
青木崇
加藤雅之

【富山県】
沢井淳一
嶋田重春
中川周三

【石川県】
二口昭夫
米谷恒洋
荷川取義浩
川端孝一

【福井県】
越田義昭

【静岡県】
鈴木義紀
片瀬喜代次

【愛知県】
中島正貴
宇津野年一
早川弘三
村木啓作
角紘昭
梅村忠雄
早川真澄
横地宇吉
稲石三二
新井友彦
鳥居晴久
浅野克彦
栗脇疑
矢野哲二
小野正雄

【三重県】
笹川ハンドボール少年団
栗本士郎
田村金子
田口隆
鈴木義男

【京都府】
審愛玲
吉田博二

【大阪府】
東嘉伸
服部秀人
四方洋子
森本正毅
望月伸三郎
緒方嗣雄
小森園多恵子
山中善之祐
幸田良一
塩川正十郎
神田清
井上真也
戸田栄一
村田弘

【兵庫県】
西澤倫雄
殿水幸雄
長原靖磨
大原康昇
小島正男
花房保
岡田茂夫
丸茂康子
北山隆
藤原豊
木田武夫
村上潔

【和歌山県】
笠中喜次

【岡山県】
藤井俊朗
森安昭雄

【広島県】
峠野光伸
浜本忠志
坪根敏宏
加川厚
杉山裕一
小沢勝利
山口修
松谷丈裕
飯田一郎
高田浩志
中山剛
田中雅彦
多田恵久
松本暢
B.R.BRAMANIS
堀田敬章
河原隆雅
藤永清
津川昭
戸田政弘
藤本康生
井藤英忠
楢原隆雄
奥田新治
玉村健次
長沢純平
酒巻清治
西元義昭

【山口県】
白井謙次
飯田弘昌

【香川県】
楠原敏明
大谷和彦

【徳島県】
半田忠史

【愛媛県】
越智武
河平武夫
野中聴
伊藤演哉

【高知県】
岡本憲和
岡村博三
清水修
熊沢徹郎
川崎英雄
片岡修一
高橋良忠
青木啓司
武田末男
沢田哲雄
有光正憲
井上敏
高橋卓也
葛目憲昭
佐賀厚幸
谷脇敦
成岡真
南クラブ
高知南高男子ハンドボール部
高知南高女子ハンドボール部
豊岡高男子ハンドボール部
豊岡高女子ハンドボール部
小松和久

【福岡県】
田中守
松本浩志
古賀信男
稲積茂紀
篠崎省吾
森山正治
中西敬一
中川英二
大場正志

【熊本県】
熊本クラブ
村上建二
高田憲之

【鹿児島県】
井料たか子
本田娟一

【沖縄県】
荷川取孝志

男子世界ハンドボール選手権大会を成功させよう

越智　武

日本のハンドボール協会（送球協会）が正式に登録されてより60年近くになって来ている。

随分海外の国際試合に参加し、オリンピックにも参加できるようになって来たのであるが、ここ数年アジア大会にて優勝することができず、無念にもオリンピックを眺めている事となり、低迷している日本ハンドボール界に大きく飛躍するためには、この大会を成功させなければ日本のハンドボール界に汚名を残すことになる。これには、地区の関係者は運営にご苦労を万全を期している事でしょう。あらゆる全国のハンドボール関係者・企業はもちろんのこと、社会人・学生等の協力がなければ成功は望めないのである。この大会が誘致できた事を心から喜びご苦労であった事を感謝しているものである。

今まで世界選手権大会に随分と参加もして来たが一粁になれない状態である。ナショナルチームを強化して8位以内に入賞をしてもらいたいものである。

新監督にオレ・オルソン氏を選任にて発足したナショナルチームも全国よりの選抜チームであり、このメンバーをまとめて調整をして、最強チームに達成して参加するには、監督の責任は重く重大な事である。あらゆる面での人的協力がなければ目的は果たせないことである。選手は違った環境で育ち、あらゆる企業母体の選手である。企業団体の協力こそ必要であり、選手も選ばれた以上その名誉を考え、全国のハンドボールファンのためにも、日本ハンドボール協会の今後の飛躍のために頑張ってもらいたい。日本ハンドボール協会と企業との関係もあり、苦しい立場もよくわかるが目標達成に全力を投球してもらいたい。〝金を出しても口はさむな〟か、金出して助言、協力こそ、積極的に行うべきである。

大会の期日は決定して監督の手中に入る日数が150日間とかですが、最高の上達した段階にて大会に参加するのには、この日数を、どの期間に持って行くかである。

企業の都合、スケジュールの関係もあることながら、目標達成のために協力して行きたいものである。協力しなければならないと思うものである。トレーニングの期間、合宿の期間、海外試合等計画されているが、この世界選手権大会参加に、外国人監督にした事は大きな目標達成のため思いきった事をしたものだと感心をしましたが、日本のハンドボール界の面子のためにもよい成績をあげるよう協力をして上位進出を期待しているものである。

全国理事長懇談会開かれる

広島国体の総合開会式の当日、広島市のホテルチューリッヒにおいて全国各都道府県並びに各連盟の理事長の多数の参加を得、全国理事長懇談会が開催されました。本年度は6月にも開催されており2度目となりますが、懇談会の意義が徐々に認識されつつあるように思われます。短い時間ではありましたが全国の各理事長より活発な意見が寄せられました。

開催に先立ち中澤専務理事より、大変にお忙しい中出席いただいたことへの謝意と、広島県協会に対する謝辞か述べられました。

【懇談会内容】

●'97男子世界選手権大会開催に向けての進捗状況報告とお願い

(1)野田常務理事より、全日本男子チームの今後の強化スケジュールについて報告があり、オルソン監督の指導の基、選手団一丸となって、本大会に向け頑張っていることが述べられた。

(2)竹野常務理事より、日本協会、熊本県協会、熊本組織委員会3者の合同会議報告、パークドームの施設報告、組み合わせ抽選会報告がなされ、本大会に向け気運が盛り上がるよう更なる協力、支援が依頼された。

熊本県協会事務局より入場券、グッズ等の紹介があった。

(3)木野常務理事より、本大会の全国向けPRについて報告、また、12月よりケーブルテレビでのPRを推進していくことが報告された。

(4)江成常務理事より、フェスティバル大会について、本大会開催期間中に日本リーグチームを中心として、一般チーム、大学チーム、高校チームを対象に交流大会を開催する。日程については、世界選手権試合のない時間帯を活用し、試合観戦も出来るように配慮することの報告があった。

(5)殿水常務理事より、各事業に経費節減を依頼していること、日本財団、各種協賛金により財源確保につとめていることが報告された。また、フレンドシップ'97の募金活動をスタートさせたことが述べられ、引き続き運動を推進、多くの方々にPRを兼ねた支援と協力依頼がなされた。

高知県武田理事長より、趣意書に高知県協会長名で協賛の挨拶状を添え、各チーム、協会役員、OB・OGに紹介、県協会として精一杯の努力をしていることが述べられた。

●大塚常務理事より、本年度全日本総合で実施予定であったレフェリーセレクションコースが中止になったことが報告され、今後IHF・PRC委員長と折衝し対応を考えることが述べられた。

●井常務理事より、以下のようなIHF、AHF総会並びにAHF・COCの報告があった。

1999年第16回男子世界選手権開催国はエジプトに決定。

熊本大会東アジア代表に中国、西アジア代表にサウジアラビアが決定、第3代表は韓国とカータルで11月バンコクで決定戦が行われる予定。

●第1回ジャパンオープンハンドボールトーナメントについて、大阪東理事長より報告があり、今後国体リハーサル大会として育て、盛り上げていくよう意見が述べられた。

今後の検討課題として、全日本総合への出場枠を2～3にする、ブロック予選の方法を考える、レベルの高いチームを集める、大会のレベルアップを計る、等述べられた。

●国体登録に関して、国体一時登録提出の時期、同登録対象チーム、国体登録用紙4部提出、ブロック理事長の記載内容のチェック、チーム名等について、平成9年度より実施する報告があった。

●小学生大会の普及について、各都道府県協会にて直属のチーム作りの依頼があった。

文部省指導要領改訂に伴い、ハンドボールの採用について検討を推進していることの報告がなされた。

指導者の公的資格取得義務付けについて協力依頼がなされ、また、スポーツ指導員養成講習会開催の依頼がなされた。

●実業団連盟市原理事長より、ジュニア育成とその財源、外国人選手の移籍について意見があった。

●教職員連盟遠藤理事長より、国体プログラムについて質問があった。

●山形県協会奥山理事長より、国体における競技場について質問が出されたが、現状では屋内3コート、屋外2コートであるが、将来的には屋内5コートの方向で努力していることが述べられた。

●大阪協会東理事長より、今後の理事長会の開催について問い合わせがあった。

●高知県協会武田理事長より、国体出場枠について検討の依頼があった。

以上の他にも、各理事長より活発な意見が交わされ、予定された時間が少なかったせいもあるが予定時間をオーバーしての意見交換となった。日頃は直接に意見交換の出来ない日本協会と各都道府県の意見交換が出来たことで大変に有意義な会となったことと思います。

懇談会終了後は有志による懇談会が催され、米倉会長、国体功労賞を受賞された大阪協会神田会長も駆けつけられ、なごやかなうちに全国の各理事長の交流の場が持たれた。参加者一同、日本ハンドボールの発展を期して散会となった。

[出席者]

(宮城)	千田 文彦
(秋田)	高山 重雄
(山形)	奥山 重雄
(福島)	加藤 岳郎
(茨城)	立原 定宗
(群馬)	宇佐美 幸彦
(千葉)	稲生 茂
(東京)	福本 弘
(神奈川)	森川 利昭
(富山)	山口 吉弘
(石川)	村井 輝邦
(福井)	越田 義昭
(愛知)	川島 克之
(三重)	鈴木 義男
(岐阜)	豊島 康彰
(京都)	吉田 博二
(大阪)	東 嘉伸
(兵庫)	大原 康昇
(和歌山)	尾高 義彦
(奈良)	中川 敏文
(鳥取)	小澤 敏正
(広島)	西元 義昭
(山口)	増田 雅夫
(愛媛)	野中 聰
(高知)	武田 末男
(福岡)	和佐野 健吾
(佐賀)	甲斐 忠義
(熊本)	奥薗 栄純 (代)
(大分)	福田 稔
(宮崎)	宮元 章次
(沖縄)	新垣 健
(実連)	市原 則之
(教職員)	遠藤 健次
(高体連)	住尾 勉
(中体連)	真田 元

[日本協会]

(専務理事)	中澤 重夫
(常務理事)	江成 元伸
	木野 実
	殿水 幸雄
	井 薫
	大西 武三
	大塚 文雄
	野田 清
	山下 泉
	竹野 奉昭
(参事)	村松 誠

第51回国民体育大会 "ひろしま国体"

天皇杯、皇后杯ともに大阪が獲得

第51回国民体育大会、ひろしま国体は10月13日より17日まで、成年の部は広島市佐伯区スポーツセンターを主会場に、少年の部は湧永製薬の地元広島県甲田町で湧永満之記念体育館、甲立多目的広場で開催された。

　注目のハンドボール競技の総合優勝は、4種別とも出場の広島、埼玉、大阪を中心に展開され、例年のごとく地元広島が有力と見られたが、成年女子大阪の大和銀行の大活躍で、来年の開催地大阪が獲得した。この勢いに乗り、皇后杯も大阪が獲得した。

　大会初日は、成年男子以外の3種別が行われたが、総合優勝に関わると思われる試合は少年女子のみであった。インターハイを制した四天王寺高校を中心とした大阪選抜と広島県選抜は2回戦へと駒を進めたが、埼玉選抜は強豪名短附を中心とする愛知選抜に敗れた。

　2日目に入り、総合優勝のゆくへは活況を呈してくる。先ず大阪は大和銀行が第1シードのオムロンを破り、少年男女とも順調に勝ち進み、総合得点争いで首位に立つことになった。続いて埼玉も、成年男子、女子で大崎電気が勝ち進み、少年男子の浦和学院を中心とする埼玉選抜が勝ち進み総合2位につけた。広島は成年男子で勝ち進んだものの、少年男子で広島



選抜が大激戦の後1点差で涙をのみ、また、少年女子でも2点差で涙をのんだ。

3日目に入り、成年女子で大崎電気が日立栃木に敗れ埼玉は一歩後退した。大阪は大和銀行の快進撃が続き総合得点首位をキープした。一方広島は、成年女子でイズミクラブがシャトレーゼに大逆転の末、1点差で勝ち優勝圏内に踏みとどまった。

4日目に入り、成年女子で大和銀行とイズミクラブの直接対決となった。この試合でも溌剌とした大和銀行が勝利を収め、大阪の総合優勝が決まった。埼玉は少年男子、成年男子で敗れ優勝争いからは後退した。

最終日には、成年男子で東京の中村荷役が、圧倒的に強いと思われた湧永製薬と日新製鋼の連合である広島選抜を、1点差で破った。これによって少年男子の明星高校と併せて東京が総合3位に入った。成年女子では大和銀行が優勝し、大阪の総合優勝に花を添えた。また、皇后杯も少年女子の準優勝で大阪が獲得した。

■成年男子／東京が優勝

成年男子は2日目から始まったが、1回戦は順当に日本リーグ勢を中心として勝ち上がった。2回戦は、本田技研対香川選抜、大崎電気対福島クラブのカードが注目された。香川選抜は、昨年の福島国体で広島選抜と延長戦を演じ、昨年の総合でも本田技研に勝っており、注目されたが、主力の田中選手の故障が響き敢えなく18—24で敗れ去った。福島クラブの昨年の国体で活躍したチーム。日本リーグ勢にどんな戦いを挑むか注目されたが、おしくも23—24の1点差で敗れた。準決勝は、中村荷役対本田技研、大崎電気対広島県選抜の戦いとなった。中村対本田の1戦は1点差を争う白熱した試合となったが、最後はGKの好守で1点差で中村が決勝に進んだ。大崎対広島選抜は、地力で勝る広島選抜がCP全員得点で決勝へと駒を進めた。

▼3位決定戦

埼　玉（大崎電気） 20（6—10／14—8）18 三　重（本田技研）

前半、立ち上がりから両チームとも、プレーに堅さはなく、試合に集中しているようだ。両チームとも、ディフェンスが良く、なかなか得点にならない。先制したのは埼玉7番辻の速攻だった。

両チームディフェンスの足が良く動き、一進一退の攻防であった。

天皇杯成績

	1位	2位	3位	4位	5位			
成年男子	東京	広島	埼玉	三重	香川	山形	福井	福島
チーム名	㈱中村荷役	広島県選抜	大崎電気	本田技研	香川選抜	東根クラブ	北陸電力	福島クラブ
成年女子	大阪	栃木	石川	広島	埼玉	三重	富山	山梨
チーム名	大和銀行	日立栃木	北国銀行	広島イズミクラブ	大崎電気	ジャスコ㈱	立山クラブ	㈱シャトレーゼ
少年男子	福岡	大阪	東京	埼玉	千葉	愛媛	富山	香川
チーム名	福岡選抜	大阪高校選抜	明星高等学校	埼玉県選抜	千葉選抜	愛媛選抜	全富山	香川選抜
少年女子	愛知	大阪	千葉	愛媛	広島	石川	茨城	熊本
チーム名	愛知選抜	大阪高校選抜	千葉選抜	愛媛選抜	広島県選抜	小松市立高等学校	茨城選抜	熊本選抜
天皇杯	1位	2位	3位	4位	5位	5位	7位	7位
チーム名	大阪	広島	東京	埼玉	千葉	石川	愛知	福岡

得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
〔埼玉〕			〔三重〕		
0	原田	1	1	四万	0
3	首藤	2	2	弥吉	1
2	魚住	3	3	丹羽	0
0	小野	4	4	後藤	0
6	森脇	5	5	茅場	5
1	近藤	6	6	山村	1
4	辻	7	7	松原	1
4	土屋	8	8	加藤	5
0	森本	9	9	日原	4
0	田中	10	10	笹浪	0
0	小野	11	11	平松	1
0	佐藤	12	12	橋本	0
20	計				18

先に抜け出たのは、三重で、相手のミスから得点を重ねた。試合は前半6対10三重のリードで終了する。

後半、始まってすぐに埼玉2番首藤、7番辻の連続ゴールで試合の流れが変わった。続々得点を重ね、後半7分、11対11の同点に追いついた。しかし、三重も頑張りを見せ、白熱したゲームになる。試合を制したのは、後半波に乗った埼玉だった。20対18という好ゲームだった。

▼決勝

東　京 21 (11−12 / 10−8) 20 広　島
(中村荷役)　　(広島選抜)

前半、地元で絶対に優勝したい広島は、攻守ともに気合いの入った動きで、序盤から押しぎみに試合を進めた。東京もディフェンスからの速攻等で、じわじわと追い上げ、20分過ぎに同点に追いついてからは、共にリズムをつかめず、1点を争う緊迫した試合展開の中、12−11広島リードで前半が終了した。

後半、東京3番西村が連続退場したものの、広島は東京1番林田の好守に得点を阻まれ、逆に東京の速攻やロングシュートが決まり、逆転を許した。ゴールキーパーの堅い守りと速攻に苦しむ広島は、なかなか東京に追いつくことができなかった。終盤、東京3番西村が失格となり、1点差まで詰め寄ったが、そのままタイムアップで、21−20東京が勝利をものにした。

得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
〔東京〕			〔広島〕		
0	林田	1	1	坪根	0
7	木浪	2	2	堀田(幸)	1
6	西村	3	3	堀田(敬)	3
2	天間	4	4	木村	2
0	林	5	5	林	1
1	泉	6	6	源内	6
0	八尾	7	7	中山	6
3	西村	8	8	坂口	0
2	高木	9	9	鮎沢	0
0	鈴木	10	10	杉山	0
0	宇佐見	11	11	山口	1
0	井上	12	12	宇田川	0
21	計				20

■成年女子／大阪が優勝

成年女子は24チームで争われた。1回戦では、ムネカタ対ブラザー工業、ソニー国分対香川BK・THが注目された。日本リーグでも不調であったブラザー工業は、メンバーを補強したムネカタにいいところなく敗れ去った。香川対ソニーの1戦は、後半ソニーのミスをつき得点差を広げた香川が、そのまま28−25で逃げきった。2回戦は日本リーグ勢が順当に勝ち上がったが、オムロン対大和銀行の一戦に波乱が起きた。大和銀行は、後半12分15−15から竹田、西口、田中らで得点を重ね、リードを広げた。一方オムロンは疲れがでたのか足が止まり、退場者を出してしまった。そのまま大和銀行が27−20で第1シードのオムロンを破った。準々決勝では勢いにのる大和銀行が立山アルミを難なく退けた。広島イズミクラブ対シャトレーゼの一戦は、シャトレーゼの優位で進んだが、GK村山の負傷退場後、イズミに勢いがつき、逆転でイズミが勝利をものにした。他



成年女子3位決定戦

皇后杯成績

	1位	2位	3位	4位	5位			
成年女子	大阪	栃木	石川	広島	山梨	埼玉	三重	富山
チーム名	大和銀行	日立栃木	北国銀行	広島イズミクラブ	㈱シャトレーゼ	大崎電気	ジャスコ㈱	立山クラブ
少年女子	愛知	大阪	千葉	愛媛	石川	広島	茨城	熊本
チーム名	愛知選抜	大阪高校選抜	千葉選抜	愛媛選抜	小松市立高等学校	広島県選抜	茨城選抜	熊本選抜
皇后杯	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
チーム名	大阪	石川	愛知	広島	栃木	千葉	愛媛	茨城 熊本 山梨 埼玉 三重 富山

の2試合は日立栃木と北國銀行が勝ち上がった。準決勝は勢いに乗る大和銀行が後半4分からの6連取で試合の大勢を決め決勝へと駒を進めた。もう一方の試合は日立が伊佐野の確実なシュートなどで着々と得点を重ね、北國銀行を破り決勝へと進んだ。

▼3位決定戦

石川（北國銀行） 33 （17－9／16－12） 21 広島（イズミ）

得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
〔石川〕				〔広島〕	
0	岡田	1	1	小林	0
10	上出	2	2	長久	2
4	田中(由)	3	3	藤澤	0
5	宇村	4	4	中村	3
3	小松	5	5	玉野	7
1	桶	6	6	山田	0
6	浜田	7	7	飯田	2
1	宇岐	8	8	藤野	1
0	田中(美)	9	9	青戸	3
1	和田	10	10	河本	2
2	山崎	11	11	本間	1
0	安田	12	12	村上	0
33		計			21

前半、10分までは、お互い得点しては、取られるの繰り返しでなかなか次へ進まない。石川11番山崎のカットインで6点目が入ってから2番上出のミドル、7番浜田のサイドシュート、速攻が次々と決まり始め、広島はその勢いを止めることができない。25分頃から10番和田のミドルや、9番田中がサイドシュートを決めるが、追いつかない。前半、8点差をつけて石川がリードする。

後半、力強い応援を受けながら広島は、必死に盛り返そうとする。19分頃石川は、10点差をつけてリードしているせいか、ミスが目立ち始める。広島の12番村上のナイスキープ等出始め、徐々にに調子を取り戻そうとするが、石川の勢いは止めることができず、結局、12点差をつけて石川は勝利を収め、3位入賞をはたした。


成年女子決勝戦

▼決勝

大阪（大和銀行） 29 （17－9／12－17） 26 栃木（日立栃木）

得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
〔大阪〕				〔栃木〕	
0	飛田	1	1	藤井	0
1	山尾	2	2	畑	0
1	西口	3	3	伊佐野	1
4	小俣	4	4	桐谷	3
8	久保	5	5	嶋野	0
0	山下	6	6	中山	5
7	田中	7	7	沖土居	11
0	星	8	8	松本(裕)	0
3	竹田	9	9	高野	4
5	藤浦	10	10	松本(恵)	2
0	巽	11	11	中村	0
0	山下	12	12	渡辺	0
29		計			26

多大な声援の中、決勝戦は幕を

開けた。大阪は、７番田中のステップシュート、４番小俣、５番久保両サイドのシュートが、確実に決まり、着々と得点を重ねていく。栃木は、セットで攻めていこうとするが、大阪の堅い守りを崩すことができない。流れは完全に大阪に向き、シュートの確実性や、スピードある速攻で栃木を突き放し、前半、８点差をつけて、大阪がリードする。

後半、栃木は、自分たちのペースにしようと、前半とは違い、シュートも確実に決め、差を縮めていった。一方、大阪は焦りが見え始め、ミスも出始めた。残り３分で３点差まで追いついた栃木は、同点までたどりつけるかと思ったが、大阪はそれを許さず、結局３点差をつけて大阪が優勝した。

決勝戦にふさわしい両チームの奮闘ぶりに会場は大いに盛り上がった。国体の最後を飾る素晴らしい試合だった。



■少年男子／福岡が優勝

少年男子１回戦は、千葉選抜が石川選抜を逆転の１点差で下したほか、強豪チームが順当に２回戦へと駒を進めた。

２回戦は早朝の降雨のため、30分遅れで開始された。試合の方は大激戦が続出した。横浜商工主体の第１シード全神奈川対全富山の試合。全富山は後半９番中川の好打で追いつき延長戦へともつれ込んだ。延長でも神奈川は先行するが富山もしぶとく追いつき、残り30秒差で決勝点をあげそのまま逃げきった。山口選抜対福島選抜の試合も１点差の好ゲームとなった。終了１分30秒前、福岡は１人退場、山口は７ｍＴを得るという絶好のチャンスを得たが、７ｍＴを失敗しその後のチャンスも得点することが出来ず、山口は惜しくも涙をのんだ。地元の応援を受けた広島選抜対愛媛選抜の試合。広島は開始早々快調な滑り出しで、６－０とリードを奪う展開。後半に入り広島は動きが悪くなり３人の退場をきっかけに崩れていった。後半12分には愛媛にリードを許し、その後一進一退の攻防の末、終了間際に愛媛の得点を許しそのまま１点差で終了となった。香川選抜と京都選抜の試合は、京都塩山がけがのため不調で残念であったが、前半のリードを守った香川が１点差で逃げきった。

準々決勝は２試合が延長となる激戦であった。大阪高校選抜対千葉選抜の試合は、千葉が開始10分で６－２とリードするも、後半大阪は速攻で追いつき延長戦へと突入する。延長に入り大阪は速攻でリードを奪い、追いすがる千葉を振りきり１点差で勝利を得た。他の１試合は香川選抜対埼玉選抜。退場９名、失格２名を出すという荒れた試合であったが、前半香川の優勢に対し、埼玉も北沢、前田で踏ん張り延長へともつれ込む。延長も後半へと入り一気のスパートで埼玉が準決勝へと駒を進めた。

準決勝第１試合は福岡選抜と明

"ひろしま"国体アラカルト

大阪神田会長二重の喜び

大阪ハンドボール協会会長の神田清氏はひろしま国体開会式において、国体30回出場の国体功労賞を受賞された。さらに、大阪が成年女子、少年男子、少年女子で快進撃を続け総合優勝も手に入れると言う二重の喜びが重なった。表彰式においては自ら先頭にたって入場行進され、渡邊副会長より大会会長トロフィーを受け取られた。

開始式に彩りを添えた吹奏楽隊

佐伯区スポーツセンターでの開始式に、広島市立五日市中学校の吹奏楽隊によるアトラクションが披露された。中学生とは思えぬきびきびとした動きと、立派な演奏に魅入られていた。

背番号１のコートプレイヤー

少年男子の部で背番号１番のコートプレーヤーが活躍した。愛媛選抜の大角選手。準々決勝まで勝ち進み、１回戦７得点、２回戦２得点、準々決勝３得点と大活躍を

星高校。福岡GK松村の活躍で難なく福岡が決勝へと進んだ。第2試合は大阪対埼玉の一戦。大阪は前半22分埼玉に退場者がでたのをきっかけに3連取で9－5と前半リードで後半へとはいる。大阪はこの時のリードを活かしきり決勝へと勝ち進んだ。

▼3位決定戦

東京（明星高校） 22 （11－6／11－10） 16 埼玉（埼玉選抜）

〔東京〕得点	氏名	番号	〔埼玉〕番号	氏名	得点
0	安達	1	1	小山	0
0	佐藤	2	2	北沢	1
3	浜田	3	3	長谷川	0
0	大阪	4	4	三浦	4
3	渡辺(龍)	5	5	羽田	0
9	沢田	6	6	小野	4
0	喜多村	7	7	松葉	0
0	渡辺(大)	9	8	片山	0
0	古賀	10	9	前田	2
4	吉田	11	10	豊田	4
3	町出	12	11	浅田	1
			12	石原	0
22	計				16

立ち上がり、東京は相手のパスミスを速攻につなぎ1点を先取したかと思うと、続けざまに3点を連取した。一方、埼玉は早く最初の1点がほしいもののポストへのパスをディフェンス陣にことごとくカットされ、そのあせりからか前半8分まで最初の1点が取れなかった。その後、追いつきたい埼玉はカットインやサイド攻撃を盛んにしかけるが、取ったら取り返されるという展開が続き、7番松葉のけがによる退場もあり、リズムに乗れないまま11対6で東京リードしゲームを折り返した。

後半の最初、埼玉は2点連取し、3点差まで詰め寄るが、東京も落ちついてフォーメーションで取り返し点差を縮めさせなかった。残り5分、埼玉もサイド攻撃で点を取っては中央のポストを使い、最後の猛追をしかけるが、東京の多彩な攻撃力と序盤の点差が最後まで東京有利の展開で22対16で6点差で東京が3位を手にした。

▼決勝

福岡（福岡選抜） 17 （5－8／12－6） 14 大阪（大阪選抜）

〔福岡〕得点	氏名	番号	〔大阪〕番号	氏名	得点
0	西本	1	1	藤原	0
6	深堀	2	2	石川	5
3	山崎	3	3	谷口	0
1	長坂	4	4	山田	0
0	村山	5	5	野崎	1
3	浜川	6	6	山盛	4
1	川端	7	7	馬屋	1
2	重松	8	8	上平	0
0	川内	9	9	上田	0
0	渡辺	10	10	服部	0
1	堤	11	11	佐々木	3
0	松村	12	12	奥野	0
17	計				14





した。

一方成年男子の部では福島クラブの越智選手。1回戦ではコートプレーヤーとして出場、1得点をあげている。2回戦の大崎電気戦にはGKとして先発出場。日本リーグ勢のシュートを果敢に防いだが、試合は惜しくも1点差で負け。

背番号12のコートプレイヤー

成年女子、山梨シャトレーゼの小林選手は背番号12でコートプレーヤーとして出場。シャトレーゼGKは、全日本で活躍した村山選手。シャトレーゼとしては村山選手で磐石と言うことであったであろうが、広島イズミ戦で思わぬ負傷退場。急遽小林選手がユニフォームを着替えGKに。試合はシャトレーゼペースであったが、村山負傷退場後一気にイズミが勢いづいた。小林選手はイズミの降り注ぐシュートを果敢に止めたが、惜しくも1点差の逆転負けをしてしまった。

咲きちゃんも入場行進

「いのちいっぱい、咲きんさい！」





少年男子（写真上）、少年少女（写真左）でも熱戦がくり広げられた

男子決勝は、共に接戦を勝ち上がってきた大阪と福岡の対戦となった。立ち上がり大阪は早いボールまわしからチャンスをつくり得点を重ね、福岡も深堀のミドル等で得点し一進一退の攻防が続いた。

前半10分、かたさのみえる福岡は連続でミスが続き大阪石川の連続得点で一気に5対2となり、大阪優位で試合が進んだ。しかしここから福岡はGK松村の再三にわたる好守で流れが変わり、前半15分には5対4と1点差まで詰め寄った。再三にわたり同点のチャンスがあったが福岡はまたミスが出て前半20分には7対4と点差を開けられた。大阪もその後、福岡のディフェンスを崩すことができず、逆に福岡の速攻を許すが福岡はノーマークシュートを連続で外し点差を詰めれず、逆に山盛のステップで8対4となった。福岡もすぐに浜川のミドルで得点し前半を5対8で折り返した。後半に入り大阪は石川のミドルで10対6とするが、福岡も重松で返し10対7となる。その後、大阪は石川の得点で11対7とするが山盛の負傷退場の間にペースが崩れ、福岡はこの間に深堀の連続得点と浜川のロングで後半12分、11対11の同点に追いついた。これで勢いづいた福岡は後半14分堤の速攻で逆転に成功、15分にも山崎の速攻で13対11となった。大阪も馬屋原の得点で13対12とし、決勝戦にふさわしい好ゲームとなった。その後両チーム共得点、残り5分を切り16対14から福岡は深堀のシュートで17対



のスローガンのもとに開催された広島国体のマスコットは、広島県の木「もみじ」をイメージした「咲きちゃん」。甲田町での少年部の開始式では、入場行進の最後をつとめ人気を集めていた。競技開始後も、甲立会場の入り口付近で訪れた人たちと記念撮影に大忙し。

開始式に小学生による公開演技

佐伯区のスポーセンターで行われた開始式において、開催地の五日市南小学校5年生によるハンド



14とし、勝利を確実なものとした。大阪も懸命に追い上げるが得点を入れることができず結局福岡が逆転で勝利をおさめた。

■少年女子／愛知が優勝

少年女子は、選抜大会優勝の名短附を中心とした愛知選抜と、インターハイ優勝の四天王寺高校を中心とした大阪高校選抜の2チームを軸に展開された。準決勝にはこの2チームの他、千葉と愛媛が勝ち上がってきたが、大阪と愛知はこれらを難なく破り、インターハイと同カードの決勝となった。

▼3位決定戦

千　葉 19（8－8 / 11－5）13 愛　媛
（千葉選抜）　（愛媛選抜）

〔愛媛〕番号	氏　名	得点
1	桧垣	0
2	永山	2
3	大沢	2
4	池田	1
5	黒川	2
6	藤田	2
7	須田	0
8	尾後	0
9	楠橋	0
10	原田	4
11	白石	0
12	矢野	0
計		13

〔千葉〕番号	氏　名	得点
1	鈴木	0
2	渡辺	2
3	荒木	8
4	松原	3
5	石塚	3
6	宮城	1
7	柴田	1
8	小松原	0
9	庄司	1
10	仲田	0
11	小嶋	0
12	飯塚	0
計		19

開始早々、3番荒木のミドルシュートで先制した千葉は、その後も着実に得点を重ね、前半10分すぎまでに6－0と大きくリード。この間愛媛は、攻撃時にミスが多く、なかなか攻め切れず、苦しい展開が続いた。しかし、この後、愛媛は10番原田の7mスローによる得点をきっかけに5連続得点をあげ反撃を開始。これに対し千葉はディフェンスを一線からマンツーマンに変え、何とかリズムを変えようとするが、21分すぎ愛媛6番の藤田のシュートが決まり逆転を許してしまった。しかしその直後千葉も得点し、前半は8－8の同点で終わった。

後半、千葉は3番荒木らの活躍でリードし、16分すぎまで14－11とリード。愛媛は22分すぎから勝負をかけ、マンツーマンディフェンスに切り替えるが、逆に千葉は4番松原のサイドシュートから5連続得点で愛媛をふり切り、19－13で千葉の勝利となった。

▼決勝

愛　知 17（8－6 / 9－9）15 大　阪
（愛知選抜）　（大阪選抜）

女子決勝戦は、大阪と愛知の強豪同士の対戦となった。前半3分、愛知は山田の7mスローと内倉のロングで2連取した。大阪もすぐにさま、ポスト黒木のシュートで点を返すが愛知は山田のミドルで2点差とし、ゲームは進んだ。前半10分大阪は今井のカットインで3対2とし1点差を争う好ゲームとなった。その後大阪はなかなか自分たちのペースをつかめず攻撃のミスから愛知に速攻を許し、前半15分には6対2と4点差がついた。前半20分過ぎから互いにペースをつかみ得点しあい、前半は8対6で愛知がリードした。後半に入り互いに2点ずつ取り合い10対8で向かえた後半8分、大阪はエース斎藤と松本の速攻で10対10の同点に追いついた。愛知もポスト石森の連続得点でまたも2点差とする。その後も互いに点を取り合い、後半17分中塚のカットインで15対12となった。大阪もすぐに点を返すが、なかなか点差が縮まらない。逆にあせりから攻撃でミスをし、残り2分エース斎藤が痛恨の退場、結局愛知が前半の2点差を守り切り大阪に競り勝った。大阪は最後までポスト黒木を生かした攻撃ができず、愛知の堅いディフェンスを崩すことが出来なかった。

〔大阪〕番号	氏　名	得点
1	鈴	0
2	松本(優)	1
3	上山	1
4	浅野	0
5	黒木	2
6	斉藤	3
8	松本(奈)	4
9	大城	0
10	今井	4
11	三原	0
12	筒井	0
計		15

〔愛知〕番号	氏　名	得点
1	阪野	0
2	川添	1
3	山田	3
4	内倉	3
5	石森	5
6	石之腰	2
7	前橋	3
8	荒井	0
9	萩野	0
10	三木	0
11	山田	0
12	安達	0
計		17

ボール競技の公開演技が行われました。子ども達がボールを追いかける姿には、これからのハンドボールの普及の原点に接する思いがしたとの感想も漏らされました。米倉会長も大変な大喜びであり、広島県協会としても甲田町とこの佐伯区を中心として、小学校のハンドボールの普及に力を入れるとのこと。後日、五日市南小学校の校長先生を訪ね、ゴールポストとボールを記念に進呈する約束をし、日本リーグチームによる指導の約束もしたとのこと。

民泊を通じて友情の和

昨年の第50回福島国体で色々とお世話になった本宮町国体室長の阿部甚吉氏が地元広島のイズミの応援に福島の民泊協力者10数名と一緒に訪れられました。

昨年の本宮町の大会で民泊したイズミの選手と親しくなり交流が出来、福島での日本リーグにも応援に出かけるとのこと。今回は地元広島での国体に本宮町からわざわざ応援に出かけてきたとのことでした。

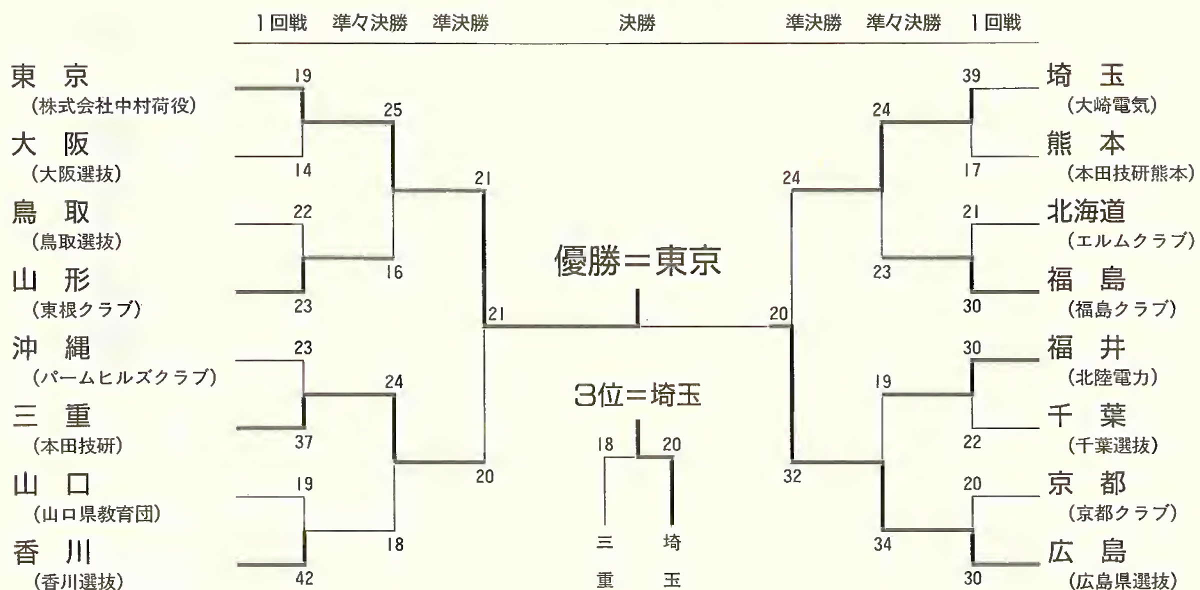
今年も甲田町では民泊が行われています。このような民泊を通じ、ハンドボールファンが一人でも多く増え、全国のハンドボール会場に足を運んで貰えるようになればと願っている次第です。



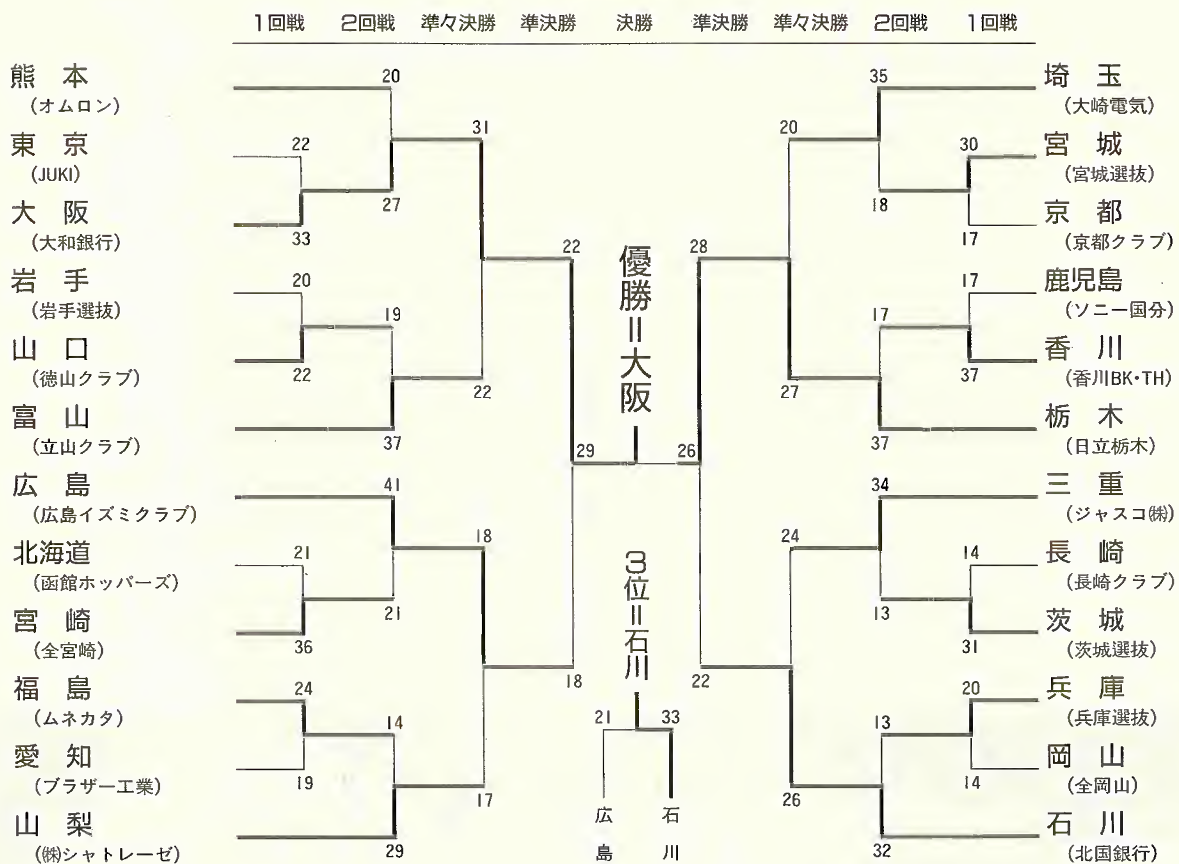


ハンドボール競技試合結果

成年男子

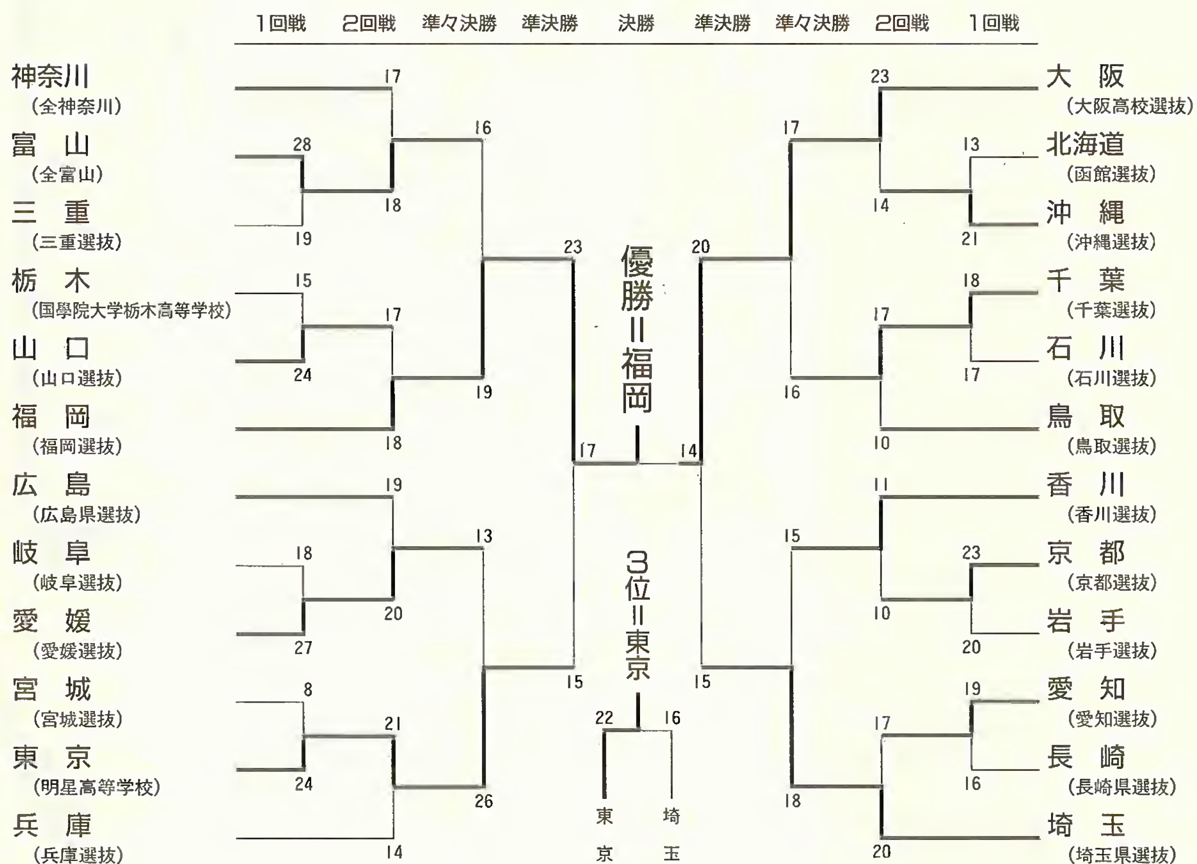


成年女子

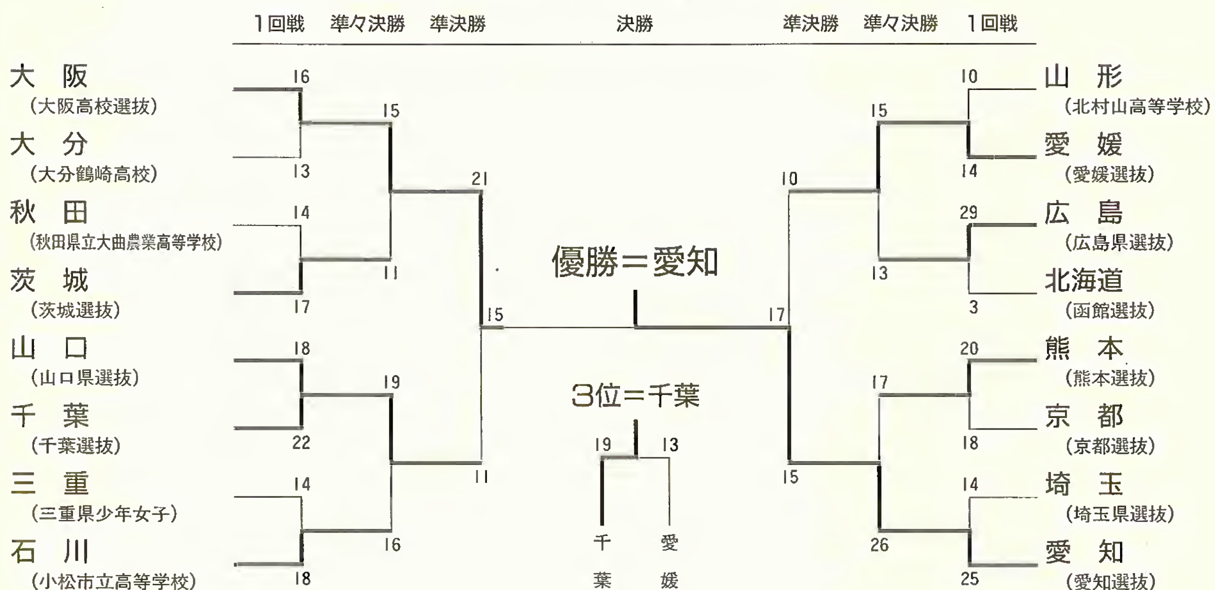


第51回国民体育大会（広島）

少年男子



少年女子



第51回国民体育大会「ひろしま国体」

優勝報告　各ブロック優勝監督の手記

成年男子優勝

東京（中村荷役）総監督　松本　勇

第51回国民体育大会において初優勝を遂げることができ、本当に嬉しく思っております。

東京の優勝は6回目ということですが、34年ぶりということで感激もひとしおです。

ご承知のとおり、我がチームは3人の外国人（韓国）の選手を擁しており、本大会の位置づけとしては、日頃試合に出られない選手の活躍の場として、また、レギュラー選手にあっては、韓国選手抜きでどれだけ頑張れるかといったことを、大きな課題としてチャレンジしてきました。

しかしながら、日本リーグの期間中でもあり、日本の選手での国体に向けての練習がほとんどできない実情でした。そういう意味では、リーグ勢との対戦となるベスト4が第一段階の目標として捉えていました。

1回戦大阪との対戦では、勝ってあたりまえというプレッシャーからか、攻守とも歯車がかみ合わずイージーミスが多く非常に苦しい戦いでした。2回戦山形との対戦も幾分ミスは少なくなったものの状態としてはよろしくなく、準決勝に不安を残す内容でした。ところが準決勝の三重（本田技研）戦では、1、2戦の勝ってあたりまえ、勝たなくてはいけないというプレッシャーがなくなり、選手個々が伸び伸びとプレーをすることができ、それが思い切りの良さに繋がり、随所にファインプレーが出て、守ってはGK林田の好セーブが連発、攻めては木浪のロングシュートが炸裂、課題としてきた速攻でも得点を伸ばし1点差ではありましたが、見違える様なチームとなって勝利をものにしました。

決勝については、広島選抜ということで、何とか良いゲームができればと考えていました。戦法としては、ディフェンスで頑張って、とにかく速攻で得点を稼ぎ、セットオフェンスはじっくり時間をかけ、ロースコアに持ち込むことができればと考えていました。前日の準決勝でのいい流れが継続され、GK林田の大活躍を原動力として、全員が一丸となって、頑張り最高のゲームができ優勝することができました。日頃控えとして頑張っていた選手が素晴らしい活躍をしてくれ、初優勝をすることができ、選手、スタッフに感謝の気持ちでいっぱいです。

韓国選手を抜いたメンバーでのこの優勝は、個々の選手にとっても、チームにとっても本当に大きな財産になりました。これを機会に、また一段と大きくチームが成長しファンの皆様に感動を与えられる様頑張りたいと思います。

最後になりましたが、この度のこの快挙もファン並びに関係各位のご声援、ご支援の賜物と心より感謝致します。ありがとうございました。

成年女子優勝

大阪（大和銀行）監督　志賀　良弘

昨年度日本リーグの入れ替え戦で敗れ二部落ちとなり、今期日本リーグ二部でのスタートとなりました。その中で四大タイトルの一つである国体に優勝できましたことは本当に意義のあるものであったように思います。リーグ戦では、戦うことない一部のチームとの戦いを楽しみに一つ一つを着実に進んで行くことで優勝を目標とし練習に励みその目標を達成できたのは、緒方総監督のもと全員が一丸となって一つの目標に向かって進んで行ったことが大きかったと思います。一人一人が自分の置かれている立場で、精一杯の努力をし、精一杯自分自身を出して行ったその結果が、優勝であったと思います。トーナメント大会ということで一戦一戦が非常に大切であることは、だれもが分かっていることであるが、それを着実にこなし、選手たちが一戦一戦大きく、たくましくなって行ったように思います。

こんな立派な結果を得られたのも選手一人一人の日々のたゆまない努力が実を結んだものと信じま

す。また、その選手たちをいつも暖かく見守って励ましてくださった職場の皆様、いつも無理を聞いてもらって充分に練習に取り組ましてくださった体育館の森川さん、いつも親代わりで見守ってくださった寮の舎監さんはじめ皆様、陰となって暖かい声援をいつも送ってくださった銀行の皆々様、それとどこまでも応援に駆けつけてくれた父母の皆様、本当にありがとうございました。

最後に、決勝戦で応援を送ってくださった広島県の応援団の皆様、本当に力強い応援ありがとうございました。

縁あって広島県で十年間生活を送り、その八年後に、また縁あって広島国体で優勝することができ、本当に嬉しく思っています。

少年男子優勝

福岡（福岡選抜）監督　七條　和也

第51回国民体育大会ハンドボール競技が10月13日に広島県甲田町の多目的広場で開始式が行われ、1回戦が始まった。

大会2日目朝から雨が降り、試合開始時間が30分遅れて2回戦の山口県選抜との試合が始まった。グランドコンディションが悪く、ボールが濡れ手に着かず、ボールチェンジをすることが多いため、速攻のリズムに乗れないままに1点差でゲームが終了した。

大会3日目の準々決勝より、湧永製薬の体育館で試合が行われた。

大会3日目準々決勝富山県選抜、大会4日目準決勝東京（明星高校）との試合は、前半より自分たちのペースで試合が出来、リードをして後半に望めましたので、少し有利に試合展開が出来ました。

大会5日目の決勝戦では、インターハイの1回戦で対戦を行った大阪選抜でした。前半立ち上がり、大阪の2番・6番の速攻で連取され、福岡は2番のロングシュートで攻撃を開始した。前半福岡の堅さが見え、シュート・パスミスが続き8－5で大阪選抜がリードで終えた。後半大阪は攻撃が単調になり、パスミスが続き、このチャンスを福岡は2番・6番の速攻やロングシュートで得点をする。また、8番のポストからの攻撃も決まって9分から連続6得点を上げて一気に逆転に成功した。その後は、一進一退の熱戦を展開するが、20分過ぎには4番のサイドシュートが決まり、2番・6番のロングシュートで連取した。追いすがる大阪を引き離して栄冠に輝いた。

全試合を終えて感じたことは、どこの県の選抜チームも速攻は目を見張るものがあり、また多種多彩の攻撃力を持っていました。しかし、オフェンス力に比べるとディフェンスの対応の悪さが目立った試合が多いように思いました。

最後に、今回の宿泊は民泊ということで、選手のコンディション作りに戸惑いがありましたが、各民泊の方と選手が一体となって、試合の応援をはじめ、日常生活まで気を配っていただきまして、本当に素晴らしい成績と思い出を残せたことを感謝致しています。

少年女子優勝

愛知（愛知県選抜）監督　大橋　晃

『いのちいっぱい、咲きんさい！』のスローガンのもと広島県甲田町で第51回国民体育大会秋季大会が開催された。国体を経験し、そこから学ぶものは数々ありますが、今回ほどそれを強く印象づける大会は、他にあったでしょうか。

愛知県の代表として選出されたスタッフ3名、選手13名は、期待と誇りを胸に広島へむかった。しかし、今回はいつもと違う点が、それは民泊である。選手にしてみれば見ず知らずのご家庭に泊めていただく事になるわけで、唯一の不安材料であった。そんな話題を車中でしながら甲田町に到着。我々を迎えてくれたのは、揃の蛍光イエローのウインドブレーカーを着た町民の皆さんの満開の笑顔。普段の大会では、駅で迎えてくれるのは看板と旗の行列。あるいは他県選手団の色とりどりのジャージです。これにはさすがに驚いた。迎えられた私たちにもその笑顔が伝染し、駅におりたった早々に我々の心は、すっかり打ち解けられるだけの準備ができあがった。民泊の不安はどこへやら……。歓迎レセプションの中で町長さんの『心でもてなそうと……』という1説に唯々頷くばかりであった。行き交う人、小さい子からおじいちゃん、おばあちゃんが気さくに挨拶をしてくれた。試合に出かける時、玄関の前で見えなくなるまで見送って頂いた。食事のおばちゃんの『心を込めて作っております』の1言。まるで、痒いところに手が届いた様な出来事ばかり。

日常生活で親への感謝、人と人の関係で心を開く事の大切さ、心を受け入れる事の大切さ、挨拶の励行を、今回の事を通じてより一層理解の度合いが深まったのではないかと思います。

こんな素晴らしい環境の中選手は頑張らないはずがありません。試合の方は、順調な滑り出しをみせ1、2回戦で全員得点。準決、決勝とも白熱し接戦僅かの差で優勝させていただいた。今大会は、1つの目標があった。というよりも今年は練習試合をほとんどやらずにどこまで成果を上げられるかという目標があった。インターハイ終了時点から1試合だけを消化した。また今期でいえば8、9試合の練習試合を消化しただけである。年間を通じ基本、基本の見直しのみを強化ポイントにおいた。それだけに今回は嬉しさもひとしおであった。

大会に参加するのは選手だけでないと常日頃思っていた我々にとっても選手にとっても、今回の大会は、『競技をさせていただいてる』ということを痛いほど思い知らされた。普段あたりまえと見えなくなってしまう様な事を、もう一度見直すいい機会になったとおもいます。

最後に、大会に参加、協力していただいた皆様、ありがとうございました。

女性審判員を"ひろしま国体"に送って

九州ブロック審判長　福田英明

第51国民体育大会でお世話になった龍、貞島両レフェリーは、ここ2年間で審判技術が顕著に向上したペアーで佐賀県の高橋先生の推薦と前年度全国教職員大会で評価をしていただいた中国ブロック柳井先生の強い要望を受けて初めて国体の大舞台に送り出した次第です。

龍審判員のご主人はハンドボール界の方々がご存知の何度も全国高校選手権大会等を制覇されました久留米工業大学附属高校の監督さんであり、また、一方貞島審判員は毎年インターハイ出場の神埼清明高校の指導員であり全国大会の雰囲気には充分慣れていると思っていましたが、しかし審判員としての国民体育大会は初めてのことだから多少私も不安感を持っておりましたが、日本ハンドボール協会審判委員長の大塚氏をはじめ他の先輩審判員の方々の良きご指導を得ながら最終日のセミファイナルまで吹笛をさせていただいたと報告を受けました。

これもひとえに中国ブロックで大塚ペアーを育てられた柳井ブロック審判長の指導力だと心から敬意を表し、また感謝申し上げます。両審判もこれを契機に益々レフェリングに研鑽し技術向上していくことと期待しております。

初めての国体審判を振り返って

龍　弘美



写真左から龍弘美さん、真島早苗さん

第51回国民体育大会ハンドボール競技大会が10月11日から11月16日の期間、広島県で開催されました。私たち（ペアーの貞島先生）は、この大会の審判員として参加しました。初めての国体はやはり緊張と不安でいっぱいでした。でも、暖かい、そして和やかな雰囲気の中で最後まで気持ちよく吹かせて裁いたことはとても感謝しています。

私たちは、少年女子の審判をしました。会場は、甲田町の湧永満之記念体育館でした。1回戦から最終戦まで、客席はどの試合も、いっぱいでした。幼児・小学生・中学生・高校生・父母そしておじいさん・おばあさん…。たちまちのうちに埋まっていました。プレイする者も見る者も審判する者も心が一つになった素晴らしい広島国体でした。

私が全国大会を審判として経験したのは、この国体を入れて4度目です。宮崎インターハイ・全国クラブ選手権大会、そして昨年、広島県で行われました全国教職員大会です。この大会がきっかけで、今年の国体にも参加できたのではないかと認識しています。また、平成4年に日本ハンドボール協会公認審判員の「A級」の試験を受け、合格したのも、広島県でした。私にとって広島県は縁の地です。

私はこの国体で嬉しかったことがあります。私たちは本来、勤務日程が10月14日（2回線）まででした。相方の貞島先生と「一日で帰りなさい」と言われないように頑張ろうね！　できれば最後まで残れるように最善を尽くそう。二人で心に誓っていました。念願がかない、最終日まで残り、3位決定戦を吹かせて戴きました。

また、女子レフェリーが1ペアしかいなかったこともありますが、たくさんの方々に激励して戴いたことです。その中でも特に感激したのは、少年女子大阪府選抜チームの監督（繁田先生）さんに「貴方たちが決勝を吹くと思って楽しみにしてたわ。ほんまによう頑張ってたと思うわ。女もやれるってとこ見てもらわなね。これからも吹き続けてな。ほんま大変やったなー。ご苦労さんでした。来年は大阪国体やし、チャンスがあったらまた吹いてな。」と、握手までして裁きました。心温まるお言葉を裁き心から感激しました。ありがとうございました。

私も今年で33歳になります。あと何年吹けるかわかりませんが、一試合一試合を大切に、精一杯吹いていきたいと改めて思いました。

貞島　早苗

最初に国体を吹けるという知らせをもらった時、正直いって驚いた。

なぜなら全国大会を吹いた経験がほとんどなかったからだ。不安が先に立ってはいたが、このような機会は二度とないかもしれないし、名誉なことでもあるので参加させて戴いた。

広島県甲田町の会場では、どの試合も選手と地元の方が一つになって盛り上がっており、国体初参加の私たちもそのムードにのせられ、失敗も多数あったが、それを忘れさせてくれるくらい気持ちよく吹かせて戴いた。

女性の審判というので、珍しさの一方で不安材料もあったかもしれないが、多くの関係者の暖かい心遣いでこの大会を無事終えることができたことに心から感謝しております。

また機会があれば参加させて戴きたいし、できれば自分のチームで参加し、今回のような感動を体験できればと願っている。

第15回男子世界選手権大会西アジア予選に参加して

日本ハンドボール協会常務理事　井　薫



すでに皆様はご存知のことと思いますが、アジア大陸には開催国の日本を除いた3カ国に出場枠があり、その出場権については、極東と中東を東西に分けて予選を行い、それぞれの1位は権利獲得、最後の1枠を双方の2位が、第2次予選を行い決定しています。

9月30日にソウルで行われた、東アジアの代表決定戦は、若手中心の韓国有利の下馬評をくつがえして、中国が29対27で出場権を手にしました。

主力がスイスや、日本のリーグに参加、それでも若手の台頭著しく、戦力的にはそう変わりないと判断した韓国側から考えると、まさかの敗戦でしょうし、逆に中国にとっては会心の勝利だった事でしょう。

現に韓国の新聞、東亜日報は「韓国男子ハンドボールが、中国に衝撃の敗北を喫した、しかし我々には西アジア地域の2位に勝ち、世界大会への希望は残されている」と、敗戦のショックと予選突破への期待を報じていました。

さて、西アジア予選は10月4日から8日までカタールで開催されましたが、私はAHFの要請をうけ、COC委員の立場で大会の立会人として参加しました。

当初は8カ国参加の予定の大会でしたが、各国に事情があってサウジアラビア、イラン、バーレーン、カタールの4カ国となり、リーグ方式で行いました。

なかでも、前回の世界選手権に出場、さらにアトランタ・オリンピックにも出場した、クウェートがプレイヤーと協会のトラブルで、活動ストップとなったとの事で、オリンピック予選でアジア全体から顰蹙をかった、クウェート協会の強引な姿勢が裏目に出た格好で、大いに反省があってしかるべきだと思いました。

決勝は8日、サウジ対カタールとなりましたが、勝率ではサウジが上回るものの、4点差でカタールが勝てば逆転優勝とあって、試合の前から会場は異様な盛り上がり。

試合は両チームのゴールキーパーの活躍で、引き締まった内容で前半は11対8とカタールがリード。

スタンドの両国応援も、国旗を打ち振り、独特のドラムを叩いての熱狂ぶり、後半も両チーム互角、一進一退の展開の中、残り4分50秒でカタールが待望の4点リードとなるシュートを決めました。

しかしそのシューターが、観客に拍手を求めるような仕草をしたのが、運悪くサウジの応援席の前だったため、激高したサウジ側からコートに物が投げ込まれ、それからはお決まりの両国応援団の小競り合いとなり、会場は大混乱となりました。（写真）

1時間20分中断の末、会場から総てのサウジ人を退去させて試合は再開されましたが、体も冷え、リズムを狂わされたカタールが2点を許し、22対20で勝利したものの、得失点差でサウジの1位が確定しました。

この事はある程度は予測していましたが、一昨年、昨年につぐ3年の連続トラブルは如何にも異様な事態、今回はデンマークからIHF派遣のレフェリーを呼ぶ等、ある程度の改善は計られてはいましたが、試合当日の朝サウジからのクレームで、結局は韓国のペアに交代などAHFの大会運営に問題が多く、いつもその巻き添えは現場で、中東主導ではアジアのハンドボールの将来は暗いと思いました。

反省の会議で私は、レッドカードを受けるのは、AHFであり、私の属するCOC委員会（競技、運営）である事を強く訴えましたが、はたしてどのくらいのアピールになったのでしょうか。

第14回男子世界学生ハンドボール選手権大会参加に際して

全日本学連理事長　福地賢介

昨年4月に各地区学生連盟及び実業団連盟の推薦選手50余名を日本ハンドボール協会強化委員会(全日本B担当)と共同で、技術面及び海外における適応性を主要選考要因として選考作業入った。5月から全日本Bチームとしての第一次選考会、その後、数回の選考会、来日したハンガリー学生選抜・フェルデン(アンダー22として対戦)との国際試合及び来年8月のロシア遠征を最終選考として別表のような選手を選考した。

前回(トルコ)も代表の森山(日体大)・池辺(大体大)・佐々木(日体大、ドイツ南西リーグへ留学)、東日本学生選抜でドイツ遠征経験の田中(日体大)・岩本(国士館)以外も、過去2回の国際試合とロシア遠征で、対外人の高さとパワーにも、若干ながらも慣れたと思われ、世界学生で戦うには体格面では稍小型化は否めないものの、スピードと積極的な守りで補い、優勝候補のロシア・フランス・ユーゴ・その他と戦いGK井藤(当時=日体大・現在湧永製薬)・CP西山(当時=筑波大、現在日新製鋼)等各選手を擁して残した7位に何とか近づきたいと思っている。

指導スタッフには経験豊富な松井監督、松コーチに、今後の世界学生選手権大会を見据えて、学生界の指導者として期待の宇栄原コーチが加わり、意欲的な指導が見られている。松井監督も『過去の経験を生かして出来るかぎり上位を目指して努力したい。しかし、ただ単に世界学生選手権大会に参加すると言う事のみでなく、斯界のために参加選手から全日本へ送り出せる選手の養成と言う事も考えて頑張りたい』としているが、松コーチも『池辺・岩本・清水・田場・佐々木の守備陣の頑張りに期待すると共に早い攻防で何とか戦いたい』としている。

なお、今回、学連審判委員会や専門委員会の要望で研修のために審判研修員と技術面での視察員と次回のための養成選手の派遣もあり、各氏の専門分野で研修後の活躍も合わせて期待したい。

全日本学生男子選抜チーム

大会名称＝第14回男子世界学生ハンドボール選手権大会

開催国名＝ハンガリー　開催期間＝1996年12月27日～1997年1月6日

団長	福地賢介	全日本学生ハンドボール連盟理事長
監督	松井幸嗣	全日本学生ハンドボール連盟理事・日体大監督
コーチ	松　喜美夫	全日本学生ハンドボール連盟理事・函館大監督
コーチ	宇榮原幸政	全日本学連男子世界学生専門委員会・中部大監督
ドクター	沖本信和	日本ハンドボール協会医科学委員会・産業医科大
トレナー	川波賢一	日本ハンドボール協会医科学委員会・浜脇病院
視察	吉田久士	全日本学連男子世界学生専門委員会・国士大監督
総務	岩崎みどり	株式会社エンタープライズ・全日本学連遠征取扱
審判	後藤　登	日本ハンドボール協会審判委員会・国際審判員
審判	清水宣雄	日本ハンドボール協会審判委員会・国際審判員
審判研修	家永昌樹	日本ハンドボール協会審判委員会・関西学連
審判研修	兼田佳博	日本ハンドボール協会審判委員会・関東学連

選手	氏名	所属大学名	学年	出身高校	身長
GK	安藤功規	中部大学	4年	北陸高校	180cm
GK	元村東弘	中央大学	4年	桃山学院	185cm
GK	濱口　靖	大阪体育大学	4年	境高校	182cm
CP	○池辺健二	大阪体育大学	4年	久工大高	194cm
CP	○森山　透	日本体育大学	4年	熊本市商	174cm
CP	荒尾祐治	日本体育大学	4年	北陸高校	172cm
CP	工藤誠司	筑波大学	4年	青森商高	182cm
CP	野村広明	国士舘大学	4年	大分電波	178cm
CP	清水祥二	大阪体育大学	4年	桂高校	182cm
CP	荒木誠司	大阪体育大学	4年	境港工高	172cm
CP	中川善雄	中央大学	4年	九州学院	178cm
CP	岩本　裕	国士舘大学	3年	下松工高	187cm
CP	田中　将	日本体育大学	3年	伊奈高校	172cm
CP	田場裕也	日本体育大学	3年	興南高校	182cm
CP	◎○佐々木教裕	日本体育大学	3年	拓大一高	191cm

◎印＝全日本選手　○印＝13回男子世界学生選手権大会参加選手

'97世界選手権・熊本大会情報　3ケ国が'97世界選手権・熊本大会出場へ

1996年男子パンアメリカン選手権大会でキューバが優勝

アルゼンチンが2位　アメリカが3位

1996年男子パンアメリカン選手権大会が10月6日から13日までアメリカ・コロラドスプリングスにて8ケ国を集めて行われた。この大会の上位3ケ国に97世界選手権大会への出場資格が与えられるということで激しい戦いが繰り広げられた。

3位決定戦はアメリカとブラジルが対戦。前半1点リードを奪われていたアメリカが辛くも逆転して3位を確保した。

決勝ではキューバとアルゼンチンが立ち上がりから激しい攻防を繰り広げ、21－21で延長に入ったが、結局28－24でキューバがアルゼンチンを破り、優勝を飾った。

各試合の結果は以下のとおりである。

▼予選リーグ・グループA
ブラジル44－16コスタリカ
アメリカ25－20メキシコ
ブラジル34－14メキシコ
アメリカ28－17コスタリカ
メキシコ36－13コスタリカ
アメリカ21－14ブラジル

【順位】
①アメリカ
②ブラジル
③メキシコ
④コスタリカ

▼予選リーグ・グループB
キューバ37－7プエルトリコ
アルゼンチン32－18カナダ
アルゼンチン32－18プエルトリコ
キューバ22－15カナダ
カナダ32－13プエルトリコ
キューバ23－16アルゼンチン

【順位】
①キューバ
②アルゼンチン
③カナダ
④プエルトリコ

▼セミファイナルラウンド
メキシコ28－26プエルトリコ
カナダ30－13コスタリカ
アルゼンチン20－15アメリカ
キューバ18－11ブラジル

▼7～8位決定戦
プエルトリコ21－20コスタリカ

▼5～6位決定戦
カナダ28－19メキシコ

▼3位決定戦
アメリカ27－22ブラジル

▼決勝
キューバ21－21アルゼンチン
（延長）28－24

ケーブルテレビ（スポーツ-i）放映のお知らせ

ハンドボールの魅力、醍醐味、全日本選手P・R、ビック大会の放映、熊本世界大会のP・R並にワンポイントルール解説等が入り楽しめることと存じます。

放送予定日　（毎週水曜日＝19:00～20:00）

12月4日　PM8:30～
'96欧州選手権(男子)準決勝1
スペインVSユーゴスラビア
(再放送:12/7 PM7:00～)

11日　PM8:30～
'96欧州選手権(男子)準決勝2
ロシアVSスウェーデン
(再放送:12/12 PM7:00～)

18日　PM8:30～
'96欧州選手権(男子)3/4位決定戦
ユーゴスラビアVSスウェーデン
(再放送:12/21 PM7:00～・23 PM9:00～)

25日　PM8:30～
'96欧州選手権(男子)決勝
ロシアVSスペイン
(再放送:12/26 PM7:00～・28 PM7:00～)

※尚　1月1日以降のカードは未定です。

列島縦断

平成15年度インターハイ長崎県開催にあたって

長崎県ハンドボール協会理事長　原田国男



待望のインターハイ開催が平成15年度と決定した7年後にひかえた長崎県開催にそなえ先ずは選手強化・審判員の養成・競技役員の研修・協会組織のシステム作り等が最大のポイントと云えます。特に協会としましては選手の確保及び強化を重要課題と考えて小学校・中学校・高等学校の一環指導を如何にして実践活動に結びつける事が出来るか検討を重ねてゆきたいと思っております。

本県の場合は長崎地区・中地区・佐世保地区と3ブロックに分けられております。

小学校の場合長崎では男子3チーム・女子1チーム、佐世保は男子1チームしかありませんので中地区と佐世保地区に男・女2チームの指定校を決めて、そこに専門の指導者を配置して指導に当たってもらい底辺の拡大に力を入れて見たいと願っているところです。

中学の部では現在のところ男子12チーム（長崎5・中4・佐世保3）女子が8チーム（長崎2・中2・佐世保4）となっており願わくば男子が佐世保地区が2チームと女子が長崎と中地区で各々2チーム増加を期待したい。中学校では指導者が少なく何よりも指導者の養成が不可欠であり、各地区との合同練習を実施することにより技術の向上を図り、県下全般のレベルアップにつなげたいものと思っております。

高校の場合は男子17チームと女子12チームがあります。男子の場合は各ブロックにバランスよくチームが分かれているのですが女子の場合は佐世保地区が6チームと長崎地区・中地区の倍となっておりせめて2～3チームでも増えてくれる事を期待しています。

特に男子の場合は私学瓊浦高等学校と長崎日大高等学校に県下の優秀選手が集中している為県下の試合に於ては常に2校が優勝戦を争っている現状です。

女子の場合は私学の聖和学院高等学校が独走の形をとっております。

平成15年度長崎インターハイまであと7年。現在小学5・6年生あたりが開催時には高校2・3年生となり県代表の形をとるところから小・中・高校に優秀な専門の指導者を配置して地区を問わず技術の向上を目指して県下のレベルアップにつなげたいものと願っております。開催地の行政機関と県ハンドボール協会とが連携を深め立派な全国高等学校体育大会が大成功を納めることが出来ますよう祈念してやみません。

インターハイに大きなエールを送りつつ。

職を求む

名前=Ms. Trine Bay
現在=デンマークテレビにてスポーツレポーターとして働いている(特にハンドボールについて)
アトランタオリンピック時、ハンドボール解説者
1992年迄　ナショナルのプレーヤー
その後FIFクラブチームのアシスタントコーチ
デンマークコーチ研修コースに最上級を卒業
ジュニアチームのトレーナー
どこか日本のクラブチームにてコーチをやりたい
TEL　45-65-911244
FAX　45-65-915614

私のチームづくり

厳しい状況の中で、努力を重ねて・・・



香川選抜監督　大谷和彦

香川県の代表監督になってはや2年が過ぎ、簡単に引き受けたが、こんなにもしんどいものとは思わなかった。特に、人間関係はとても大事だと痛感させられた。

今から私が、香川のチームづくりにおいて考えている柱を、述べさせていただきたいと思います。

【チーム構成】

香川選抜は国体に向けての活動団体であり、母体は香川教員・県内クラブチームから構成されており、他に教員大会だけに参加している者（国体で他種別の担当者や、ハンドが好きで初心者ながら教員大会に参加資格のある者）や、学生（県外の大学生）で成り立っている。現在、その人数は20名である。

【目標】

目標には、チーム目標と個人目標があり、チーム目標は、今年度どの大会に照準を絞り、どこまで頑張るか（大会での目標）といったことを、前年度に監督・コーチ・選手との間で決める。個人目標は、個々をより一層高めるために個人で決める（意欲を高める）。

チーム目標が決まれば、年間計画が立ち、個人目標が立てば、意欲から練習の参加へとつながり、参加により意欲をより強い意志へと変わっていくと思われる。

【年間計画】

年間計画を立てる上で大切なのは、ハンドボールの年間スケジュール（小・中・高・大・一般の大会等）を避けることである。このスケジュールの合間に、練習・遠征・大会計画を立てている。今年度の活動計画は、2月から12月までを活動期間とし、週3回（火・木・土）の練習を、基本としている。

練習計画で昨年と変わったところは、大会も少ない2月から5月までの第2・4土曜日を休みにしたことである。結構選手間では好評だったと思う？（身体のリフレッシュ等の重要な時間になっていた）

遠征計画は、大会に照準を合わし県外遠征を計画した。（大会から逆算して）

【練習場所】

練習場所を確保するのも難しく、主な活動場所は選手の所属先であるナイター設備の有るグラウンド（火・木の練習が夜のため）である。土曜日は、練習先の高校生との合同練習も行う。また、香川県ではハンドボールコートがとれる体育館が少ない上に予算上なかなか体育館がとれなかったり大会前に他の競技が入り、体育館で練習ができない現状は悩みの1つでもある。

【練習人数】

香川選抜の選手構成は、教員や教育関係諸団体、一般企業とさまざまであるため、毎日の練習に全員が参加することは皆無である。

また大会への参加1つでも、一般企業等では、選手はずいぶん大会期間中（長期間のため）の仕事のやりくりで四苦八苦（大会へ参加するため、大会前後に休みなしで勤務したり、出発前に仕事をしたり）している姿を見ると、いつも頭の下がる思いである。大会へ、充分な調整もないまま参加している現状は、これからもついてまわる問題である。

【練習内容】

練習内容のほとんどキャプテンに一任しており、ハンドボール以外での練習（サッカー・バレーボール・バスケットボール・バドミントン等）をアップにし、練習に取り組んでいる。

練習も大会に照準を合わし、体力作りから始め、ボールを使った練習（特に速攻でスピードの中での状況判断やパスのタイミング等）、練習試合、大会、そして試合・遠征での反省点を生かしての課題克服、反復練習でまた大会とサイクルしている。しかし、チーム練習が全員が揃わないため、どうしてもおろそかになっているのが現状である。

【最後に】

この現状の中で、頑張っている選手にはいつも頭の下がる思いですが、しかし香川のトップチームの選手である限り、全国においてすばらしい試合をすることは、県内チームの目標となり、また今の学生たちがハンドボールを続け、選抜チームでやりたいと言われ続けられるよう精進し、香川県のハンドボールの普及につとめたいと思います。

最後になりましたが、この場をおかりしましてお世話になりました関係各位にお礼を述べたいと思います。

「これからも頑張りますので、ご支援ご協力の程宜しくお願いいたします」

指導者の条件

全国大会への道

熊本市立商業高校ハンドボール部監督　大宮　泉



日本ハンドボール協会の機関誌に、「指導者の条件」との表題で執筆をせよとの連絡を受けました。

過去の全国大会で優勝したからだそうで、未だ、3回の経験しかなく、今からを目指している私が…と思いましたが、与えられた表題でなく、私の選手育成方針やこれまで辿った経緯等、多少ともご参考になればと思い、拙い文章ですが列記させて頂きます。

私が母校の熊本市立商業高校の監督になったのは、昭和58年4月のことでした。

本校は、ハンドボール部の恩師でもある津田修先生が学校創立以来30有余年にわたり指導された。(インターハイ出場15回うち11回連続出場、昭和39年上田市大会準優勝）輝かしい歴史をもつ伝統のあるチームでした。しかし、昭和52年以降チームは低迷期にあって監督に就任の時、部員3年生4名のみのスタートでした。

7人の選手がいなければ、大会に出場することすらできません。厳しい練習を続けながら一人また一人と選手を入部させ何とかクラブとしての格好ができたのは、新人戦前の10月頃の事でした。私も若さにまかせて、選手達と一緒にコートの中を走り、自ら一選手となって汗を流す毎日でした。省みますとこの頃の選手達が一番根性を感じます。

11月、新人戦県内大会に出場し、1回戦で9対32で敗れた試合が、私の監督としての初舞台でした。

当時の指導は、自らの経験を基に選手の体力、個性等全く考慮しないで基本的技術もそこそこに、ただ勝たんがための猛練習に明け暮れていました。しかし員数合わせの急造チームは通用する事はなく、焦る私と、練習に付いてこれない選手に隔たりが出来はじめるのも事実でした。それでも、最初の一勝さえ得れば必ずハンドボールの面白味を覚え、チームワークも固まるとの信念の下、猛練習を続けました。

61年県予選で夢にまで見た決勝戦に進出し天草高校（同年全国総体3位）に敗れはしたものの、前半8対8と五分に戦い、いけるという手応えを得たのは、この時からでした。62年、県予選で10年ぶり16回目の優勝をなし（対戦は天草高校）インターハイのキップをつかみ、全国大会(北海道)では、これまた夢また夢の決勝戦まで進み、久留米工大付に敗れはしたものの、監督就任後、初めて頂点を目指す意欲に燃えました。

この頃から指導法は、中学時代にハンドボール競技以外の経験者が多数入部していた為競技中心をさけて、基本的技術と体力強化に重点を置き、正確なパスやキャッチ、シュートを充実させ、筋力強化より総力中心の練習で競技のカバーができる選手にし、卒業後競技を続ける場合もまだ十分に伸びる余裕を残したいと考えはじめていました。また、ハードな練習ではあるが、ある一面遊びの要素を加味した内容を取り入れる事により、一日の練習が終わっても、明日の練習に興味を持ち、飽きがこない内容に変えていくように心掛け、練習で頑張らせて褒める場面を一回でも作るようにしています。人間だれだって、褒められれば気分は上昇し、疲れも取れると思います。

こうした練習方法を取り入れた頃から、チーム力も向上して、高校総体では63年から3年連続して3位に入賞、平成3年優勝。そして高校選抜においても平成元年3位入賞を皮切りに平成3年度準優勝、同4年には優勝し、平成2年の国体優勝に併せて、3度の優勝を成し遂げることが出来ました。

私自身、未だ諸先輩方のご指導を受けていて、オーバーホールの時期にあります。今後多少とも充電の晩には、協会を初め皆様方へ何とか恩返しをしたいと思っている昨今です。なかでも世界ハンドボール熊本大会の成功に向けて全力で頑張ります。

これからを目指される方々へ、何かご参考になれば幸いです。有り難うございました。

指導者の条件

全国大会出場67回、幸運なハンドボール人生

山陽女子高校監督　片岡　賢司



就任と同時に、チームを結成し、以来、今日まで37年間、監督生活を続けるとは、思いもしない、この頃でもあります。その間、苦しいこと、いやなこととありましたが、全国大会出場67回できたことは、幸運なハンドボール人生とも思っています。

私の指導したことは、どこでも、だれでもがなされていることで、当たり前のことを、当たり前に書くことになります。

選手づくりには、日々の充実した練習は、当然のことと思いますが、コート外の練習として、単純なことですが、学校生活において、いかなる場所においても校内一の大きな声で挨拶ができること、「ハイ」という返事が大きな声ですぐできること、この二点に力を入れています。毎年の中で、これが徹底できる年は、全国レベルでよい成績を残しています。やはり、人前で恥ずかしがらない勇気と、言われたことをやろうとする素直な心は、練習や試合にも通じると思います。

女子の指導者（とくに高校女子）には我慢ということも重要な要素になります。全力を出し切って限界までの練習ということに欠け、スタミナを適当に温存する傾向があり、それだけに、長時間の練習には耐えるものを持っており、長い練習に対する我慢、もう一つは、プレーの習得に時間がかかることです。簡単なプレーでもなかなか、習得できず、反復を繰り返せども一向に成長せず、時にはそんな子の顔も見たくないと思うこともありますが、それに対する我慢も必要です。最後は、指導者と選手の我慢くらべと思います。

不言実行という言葉がありますが、私は反対に有言実行をモットーにしています。選手に自分がやらなければならないプレー、徹底しなければならないプレーには、まず言葉で発声させ行動させます。発声により少しでも心に打ち込めばという願いです。

色々な基礎練習過程において、その一つ一つが、何の目的のためか、それが試合の場面でどうつながるかを理解、納得させることも集中力を高めることになります。とくに本校のように、中学時代の経験者がいなかったり、少ないチームには、それを大切にします。

どんな道にもいえることですが、その道において、語り合える人、理解のある人を持つことは、人間にとって大切なことと思います。私は二人のそんな人に巡り合い、大変勉強になりました。感謝しています。

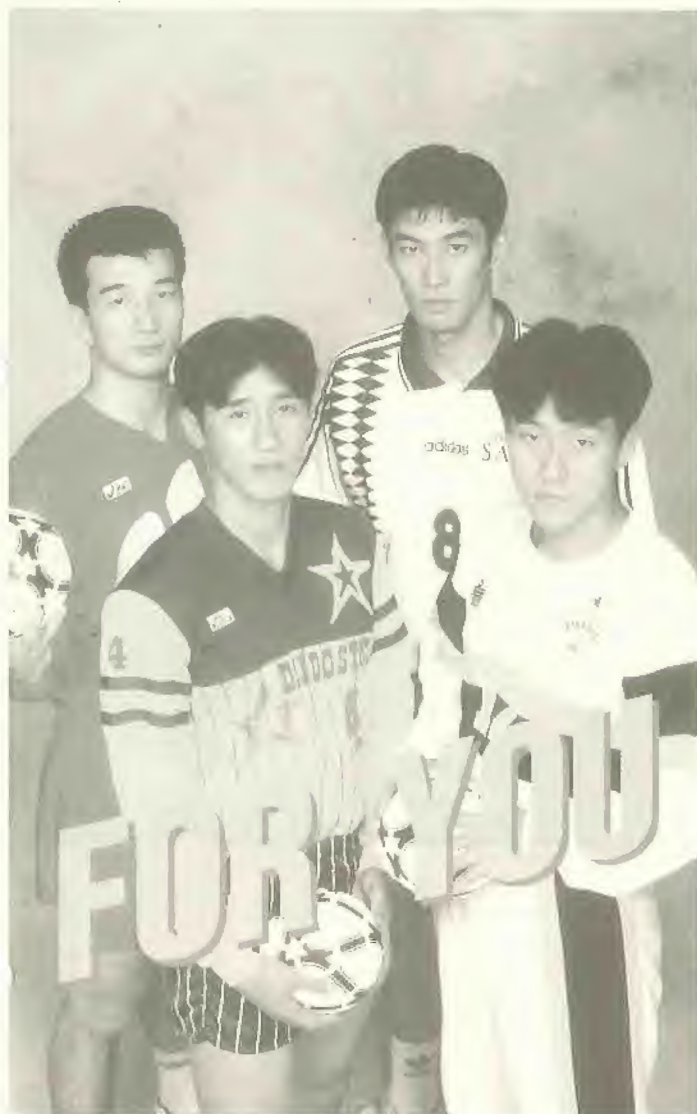
思いのままに書きましたが、一つだけ、はっきりいえること、つまり、指導者の哲学、それは「気違い」になることです。

【監督歴】

全国大会出場67回
（選抜15、総体33、国体19）
全国優勝4回
（選抜1、総体2、国体1）
全国準優勝8回
（選抜2、総体2、国体4）
全国3位5回
（総体4、国体1）

面白さ60分！

「ハラハラ。ドキドキ。スカーッとしてジーン」



11月1日から前売り開始 ※締め切りは12月25日のクリスマス

●絶対お得な前売り券！

第21回日本リーグ プレーオフ

'97 1/10(金)・1/11(土)

■東京体育館メインアリーナ

月　日	会　場	組み合わせ
1/10(金)	東京体育館	18：00〜①女子・プレーオフ準決勝《通算2位×通算3位》 19：30〜②男子・プレーオフ準決勝《通算2位×通算3位》
1/11(土)	東京体育館	16：00〜　女子・プレーオフ決勝《通算1位×①の勝者》 18：00〜　男子・プレーオフ決勝《通算1位×②の勝者》

●〈お年球〉がいっぱい！

ゲームの面白さはもちろんのこと、真の日本一を決定する日本リーグプレーオフ大会。日本リーグ『ガル・ドリームカード』（東京シリーズ）に続くファンサービスは、とても楽しめるものがギッシリ詰まっています。

ちょっと気が早いかもしれないけど、主催者が「お年球」をいっぱい用意しています。詳しくは本誌の次号告知欄をご覧下さい。それに楽しいアトラクションも盛り だくさん企画しています。

前売り

・アリーナ一般指定席　1900円
・アリーナ中高生指定席　900円
（準決勝＝前売り受付先着500名様に記念テレカ付き
決　勝＝　〃　記念Tシャツ付き）
《※いずれも体育館入場料込み》

当日

※前売り完売の際は、当日アリーナ席はないことがあります。ご了承ください

・一般アリーナ席　2300円（前売り残席数のみ）
・中高生アリーナ席　1200円（　〃　）
・一般自由席　2000円・中高生自由席　1000円

前売り入場券はチケットぴあで

チケットぴあ
03-5237-9999

■主催／(財)日本ハンドボール協会■主管／日本ハンドボールリーグ運営委員会■協力／JHL東京実行委員会・東京高体連・東京中体連

民泊で心の故郷づくり

企画・広報委員　**早川　文司**

　ハンドボールファンが増えたー。真実、そう感じた光景に出会った。ひろしま国体少年男女の会場、湧永製薬の体育館を訪ねた時のことである。すごい声援に圧倒されてしまったのだ。

　少年男女は合わせて40チームが参加、湧永のホームタウン、広島県甲田町で民泊での戦いだった。受け皿として町内33の民泊協力会が誕生、素朴なもてなしで選手をバックアップした。

　会場地入りしたチームは暖かい歓迎を受けなかには昔ながらの餅つきを体験したり、手作りの記念品をプレゼントされたりした。

　しかし、町民の熱意はそれだけではない。すごいのは応援。それぞれの協力会が担当したチームの試合にはこぞって出掛けての大声援。太鼓やホーンなど鳴り物入り。そろいのジャンパーを着て、チーム名を書いたのぼりまで登場したのもあった。勝って喜び、負けての涙を選手と共に分かち合う姿は、まるでわが子に接するようでもあった。

　甲田町は湧永製薬の影響からハンドボールタウンと言われるほど人気スポーツとなっているが、それでも今回は想像以上の歓迎ぶりだったといってよかろう。

　もう一つ、うれしいことがあった。町の実行委の心憎いほどユニークな企画だ。期間中大会マスコット「咲きちゃん」にちなんでミニ新聞「SAKIちゃんニュース」の発行。成績速報をはじめ選手のコメントなどに写真を散りばめたもので、６度も配布した。

　こうしたアイデアは今後、全国大会で大いに活用し、ハンドボール普及に役立つのではあるまいか。

〝おらが町〞のハンドボールは今回の国体を契機にいっそう身近に感じられたのであろうし、心づくしの歓待を受けた高校生にとっても素晴らしい思い出として「甲田」は忘れられない場所になったことだろう。互いにハンドボールを通して結ばれた絆を大切にして、いつしか「こんにちは」と言って訪ね合う素敵な再会へのきっかけとなれば、これほど素晴らしい出会いはない。

フリースロー
Free Throw

第48回全日本総合選手権大会展望

男女とも混戦、白熱した優勝争いが期待される

今年度ハンドボール界を総合してチャンピオンを決める全日本総合選手権大会が12月5日(木)～8日(日)まで東京体育館にて開催される。

男子

男子は、来年5月熊本での第15回男子世界選手権大会を控え、個々のレベルアップもあり、スピードある妙技と白熱したゲームが展開されよう。

大会2連覇をねらう中村荷役が安定感・実力共、他を一歩リードしている。GK井上の闘志あふれるプレート攻撃的3：2：1の防御でまとまっている。この防御からの速攻と攻撃の中心呉龍基、趙の多彩なシュートでチームを引っぱる。また、木浪のロング、泉の粘りのあるポスト、八尾、高木らの巧技はスキがない。

中村を追うのは湧永製薬。日本リーグではB・ブラマニスの加入により攻撃に厚みがでて、中山、高田らに伸び伸びプレー効果が出ている。山口、杉山らが真中の防御を固め、新人GK坪根で安定している。只、中村荷役の防御をどう崩すかがカギになろう。

大同は林(珍)、末岡、富本らでまとまっている。中堅若手で実力がある佐藤、藤井、米倉らの頑張りしだい。

大崎は首藤、魚住のリードから、左の森本の妙技、土屋、辻、永山らのガッツあるプレーで上昇気流にある。

日新は今シーズン中村荷役に勝ち、湧永と引き分けるなどいつも優勝する力があるが、ムラが多く逃している。西山監督の手腕と源内がチームをどうまとめるかにある。

三陽はエース岩本の故障で苦しい闘いが続くが、田中、五嶋らの闘志でカバーしたいところ。

本田技研はGK橋本が中心。防御からいかに速いペースにもちこめるかになろう。

学生陣は昨年名城大が大活躍。話題をさらった。今年は12月末世界学生に多く輩出している大体大の池辺、濱口、日体大の佐々木（全日本）、森山らで旋風を期待したい。

いずれにしてもトーナメントだけに、ラッキーボーイ、チームの勢いが左右するだけに中村、湧永、日新、大同、どのチームにもチャンスがある。

女子

男子以上に混戦だ。短期決戦でどこのチームが波にのれるかだが、全く予想がたてにくい。

直前の日本リーグではイズミ、北國、日立栃木が一歩リードしているが、他チームも外国勢がチームに馴染み、力を発揮してきているだけにどこのチームも決勝に出てくる力がある。

その中でもイズミは世界のMVPの林が相変わらずうまいボールさばきでチームをリードし、姜、本間、河本をからめた攻撃、また、新加入の洪(世界大会得点王)、ブラザーから移籍シュートテクニック抜群の山川で一気に優勝を狙う。

日立は馬力のある白、GK今野が加わり、進境著しい伊佐野、小柄な沖土居のコンビプレーが充実。伊藤監督も手応えを感じている。

北國は主将上出がチームをグイグイ引っ張っている。田中(美)、山崎、田中(由)のロングと、小松、安田らのテクニックで、走りが止まらなければ勝てるだろう。

オムロンはようやくここにきて世界的アタッカーでテクニシャンの石偉が入ってまとまってきている。

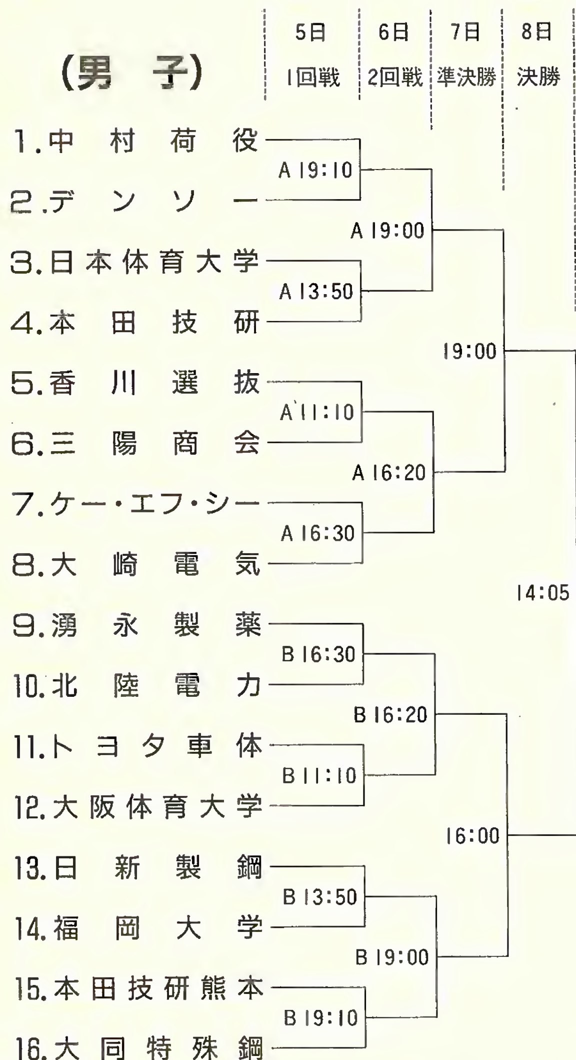
大崎も不安定ながらベテラン尹が健在、オールラウンドプレーヤーの金、広瀬、金丸の気力しだい。日本リーグでイズミに勝っているだけにダークホース的存在。

シャトレーゼもデンマークからフローマンらがチームにとけ込み、春先よりチームは大幅にアップ。立山も韓国からの白、柳コンビが中心。ジャスコも土師、山形らが元気で速いペースにもちこみたいところ。大和は国体優勝で活気づいている。運動量の多い攻撃で、田中(美)、小俣、藤浦が主力。

学生陣では東京女子体育大にはGK遠藤、梶田、小島、山口、第2位の大体大にはGK友貞、辻(全日本)、池原、裕などの逸材が揃っているだけに4強にくいこめるか注目したい。

第48回全日本総合ハンドボール選手権大会組合せ

12月5日㈭〜8日㈰東京体育館





A……Aコート
B……Bコート

12 月 の 行 事 予 定

■日本リーグ
●大崎電気：北国銀行
12月１日　埼玉・三郷市総合体育館
●デンソウ：三景、トヨタ自動車：北陸電力、
ブラザー工業：ムネカタ
12月１日　愛知・三好公園総合体育館
●ソニー国分：大和銀行
12月１日　高知・高知県民体育館
●本田技研熊本：トクヤマ
12月１日　熊本・合志町総合センター「ヴィーブル」
●ソニー国分：ムネカタ
12月13日　鹿児島・国分市総合体育館
●山陽商会：トヨタ車体、中村荷役：大崎電気、
三景：北陸電力
12月14日　神奈川・川崎市とどろきアリーナ
●本田技研：日新製鋼、ジャスコ：立山アルミ
12月14日　三重・鈴鹿市体育館
●大阪ガス：本田技研熊本、大和銀行：ブラザー工業
12月14日　兵庫・大阪ガス今津体育館
●北国銀行：イズミ
12月15日　山形・東根市民体育館
●日立栃木：大崎電気
12月15日栃木・栃木市総合体育館
●シャトレーゼ：オムロン
12月15日　山梨・小瀬スポーツ公園体育館
●大同特殊鋼：湧永製薬、デンソー：アラコ九州、
トヨタ自動車：トクヤマ
12月15日　愛知・豊田市体育館
●大崎電気：トヨタ車体
12月18日　埼玉・志木市民体育館
●本田技研：山陽商会、ジャスコ：シャトレーゼ
12月18日　三重・鈴鹿市体育館
●北陸電力：デンソー
12月18日　福井・北陸電力福井体育館
●アラコ九州：トヨタ自動車
12月18日　佐賀・佐賀県総合体育館
●日新製鋼：大同特殊鋼、湧永製薬：中村荷役
12月19日　広島・東区スポーツセンター
●トクヤマ：大阪ガス
12月19日　山口・徳山市総合スポーツセンター
●トヨタ車体：大同特殊鋼、トヨタ自動車：大阪ガス、
デンソー：本田技研熊本
12月21日　愛知・刈谷市体育館
●日新製鋼：湧永製薬、イズミ：大崎電気
12月21日　広島・東区スポーツセンター
●ムネカタ：大和銀行
12月22日　福島・本宮町総合体育館
●立山アルミ：日立栃木、北陸電力：トクヤマ
12月22日　富山・富山市体育館
●中村荷役：山陽商会、三景：アラコ九州
12月23日　東京・府中市立総合体育館
●本田技研：大崎電気
12月23日　三重・本田技研鈴鹿健保体育館
●オムロン：北国銀行
12月23日　大分・大分県立総合体育館
●ブラザー工業：ソニー国分
12月23日　愛知・半田市体育館
●日立栃木：イズミ、ムネカタ：ブラザー工業
12月25日　福島・本宮町総合体育館
●トヨタ車体：中村荷役
12月25日　愛知・知立市福祉体育館
●湧永製薬：本田技研
12月25日　高知・高知市民体育館
●大崎電気：大同特殊鋼、シャトレーゼ：立山アルミ、
大崎電気：オムロン
12月26日　埼玉・志木市民体育館
●北国銀行：ジャスコ
12月26日　石川・小松市総合体育館
●日新製鋼：山陽商会
12月26日　広島・日新製鋼呉体育館

■第48回全日本総合選手権大会
12月５日(木)～８日(日)　東京体育館
■第５回JOCジュニアオリンピックカップ
12月26日(火)～28日(木)　大阪府堺市
■'97世界選手権大会・熊本　組合せ抽選会
12月６日　東京プリンスホテル

CONTENS　12月号

（財）日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第三七〇号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成八年十一月二十六日 印刷 平成八年十二月一日 発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 中澤重夫
価格は登録金に含む

